

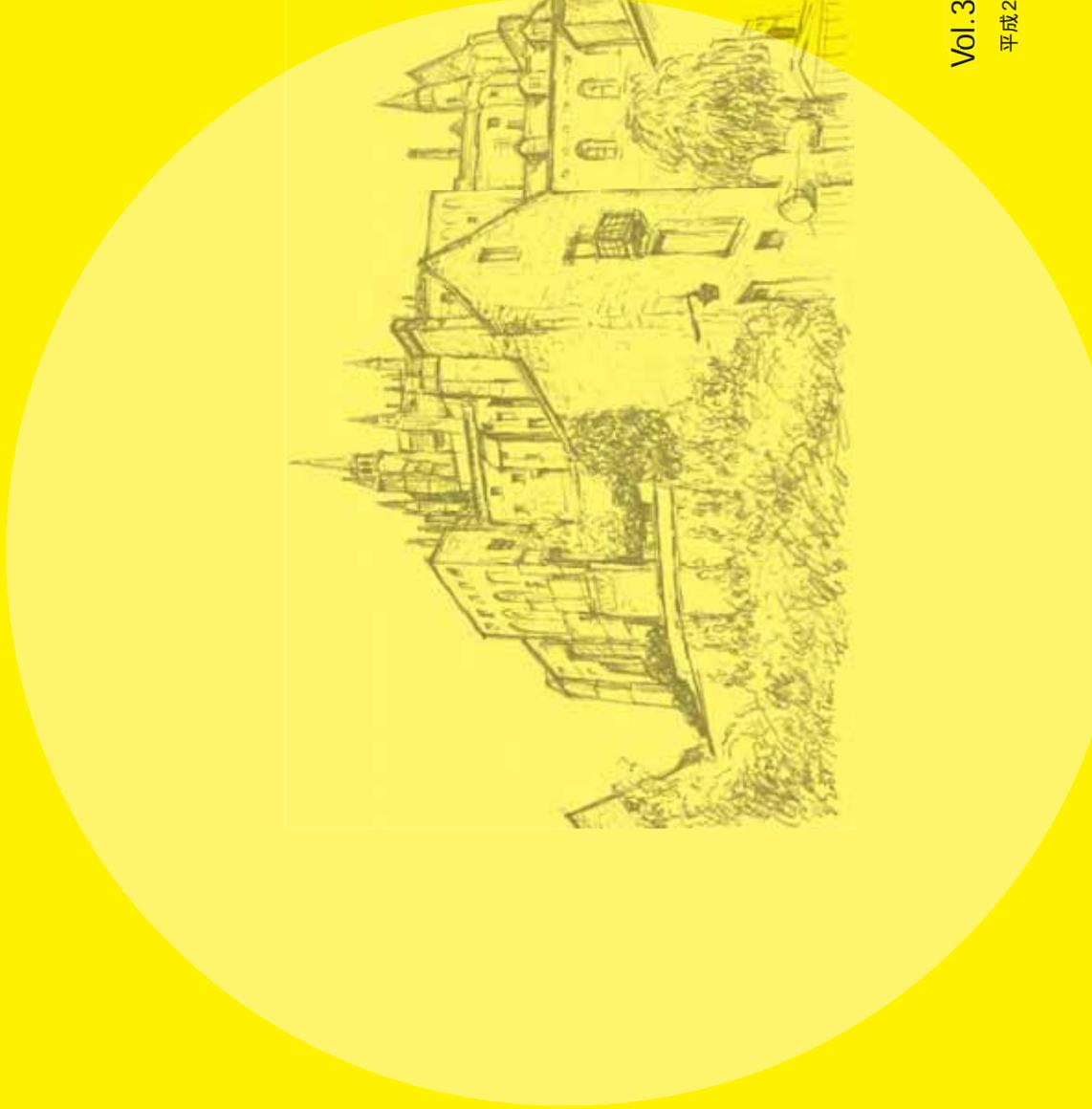
AJCE 会報

コンサルティング・エンジニアヤ

特集：FIDIC大会 ケベック大会報告



Association of Japanese
Consulting Engineers



社団法人 日本コンサルティング・エンジニア協会 (AJCE)
(FIDIC加盟機関)

Vol.32 No.3

平成20年11月・秋号

倫理要綱

(協会の目的)

社団法人日本コンサルティング・エンジニア協会は、社会環境および自然環境に関して技術に立脚した公正なコンサルティング・サービスを提供する知的専門家であるコンサルティング・エンジニアの業務の発展、社会的地位の向上および職業倫理の確立を図り、もって持続可能で豊かな社会を目指して、科学技術及び産業の発展、社会の福祉、人類の健康と安全の増進ならびに海外との経済、技術および研究に関する協力の促進に寄与することを目的とする。

(前文)

第一条 会員が、ここに掲げる目的に沿って活動するように、倫理要綱を定める。

(社会的な責任の認識)

第二条 会員は、コンサルティング・サービスの成果が広く将来にわたって大きな影響を及ぼすことに鑑み、社会的な責任を強く認識しなければならない。

(顧客利益の擁護)

第三条 会員は、顧客に対し正当にして最善の利益を図るように努めなければならない。

二 会員は、顧客の利益に役立つと考えるときは進んで他の専門家と協力するよう努めなければならない。

(公正の維持)

第四条 会員は、コンサルタントが名誉ある職業であることを自覚し、公正な立場を維持しなければならない。

(独立性の維持)

第五条 会員の職務上の助言、判断または意思決定は、いかなる場合においても第三者または他の機関の影響を受けてはならない。

(業務報酬の公正)

第六条 会員の受ける業務報酬は、公正なものでなければならず、顧客より支払われる業務報酬のみを受け取るものとする。

(専門性の保持)

第七条 会員は、自己の専門分野を明確にしなければならない。

二 会員は、自己の専門外の事項を表示し、あるいは、自己の誇大な広告をしてはならない。また、専門外の業務を引き受ける等、業務遂行につき確信を持ってない業務に携わってはならない。

(秘密の保持)

第八条 会員は、業務上知り得た顧客の秘密を他に漏らし、または盗用してはならない。

(他者の業務の尊重)

第九条 会員は、他の会員あるいは同業者の名誉を傷つけ、またはそれらの業務を妨げるようなことをしてはならない。

(平成17年4月12日 第202回理事会制定)

巻頭言

コンサルティングと異文化間コミュニケーション

株式会社エヌジェーエス・コンサルタンツ代表取締役社長

AJCE 理事 国際活動委員会副委員長 竹内正善 01

寄稿：FIDIC 大会・古今東西

個人賛助会員

技術研修委員会名誉副委員長 竹村陽一 03

特 集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

06

AJCE/KENCA 覚書締結

AJCE 事務局 66

Richard Stump 氏来日報告

AJCE 事務局 67

技術研修委員会

2008 年 AJCE 年次セミナー開催報告

「コンサルタント業務におけるリスクマネジメント」

技術研修委員会 技術研修推進分科会 68

国際活動委員会

FIDIC ニュース 2008 年 7 月号抄訳

訳責：国際活動委員会 IFI 分科会 71

事務局報告

74

編集後記

75

巻頭言

コンサルティングと異文化間コミュニケーション

株式会社エヌジェーエス・コンサルタンツ代表取締役社長
AJCE 理事 国際活動委員会副委員長 **竹内正善**

私は過去 30 年間、国際開発コンサルティング業務を通して、いかにエンジニアリングコンサルティング業界が成長し、新規顧客を獲得するために業務領域を拡大してきたかを見てきました。情報技術 (IT) の進歩とともに情報革命をもたらした国際化現象は、地勢・政治的障壁を打破し、より多くの国々が自由貿易を通じて市場を開放し、その結果コンサルタント企業はより多くの顧客を獲得することが出来るようになりました。コンサルタント企業は、国内及び海外市場での業務獲得上優位に立てるように、また拡大し続ける国際市場に、より広範囲にかつ確固たる地盤を確立して目標を達成すべく、生き残りを掛けて、多種企業との戦略的パートナーシップ締結を推進してきました。パートナーシップを確立し成功裡に目標を達成するためには異文化を理解し異文化間コミュニケーションの実践が不可欠です。

異文化間コミュニケーションによる障壁排除

インターネット及び国際化現象が、我々が活動している業務環境を一変させたことには疑問の余地はありません。企業活動が様々な国に広がり、数多くの異文化間にまたがるにつれ、「企業組織は異なる社会・文化圏に属し、異なる価値観を持つ人々といかに効果的にコミュニケーションを図るか」を理解することが困難であることに気付きました。確かに、我々の経験によれば、外国業者とのパートナーシップは、異なる文化、特に異なるコミュニケーション方法ゆえに色々な難しい問題に直面してきました。外国企業とのより安定した信頼関係を促進・構築するためには、異文化間コミュニケーションの実践が非常に重要になります。異文化間コミュニケーション

により、コンサルティング業務においてより円滑な業務処理が可能になり、ミス・コミュニケーション及び誤解による対立や摩擦を未然に防止できるものと思います。FIDIC-2008 ケベック大会において、Geoff French はコミュニケーションの重要性を、「成果品の品質は、顧客のニーズを理解し、それらを成果内容に反映させる能力によるとするならば、コミュニケーションこそが品質を決定する最重要要素であると言えます」*と述べています。企業間における異文化間コミュニケーションを実践することにより、コンサルティング業務に関わる人々は、自分たちと異なる人々のことや、文化の違いにより誤解を生じやすい状況を認識・理解し、適切に対応できるようになるものと思われま

パートナーシップ

外国企業間との効果的な異文化間コミュニケーションは信頼と調和をより一層深めます。調和の取れた関係はパートナーシップに繋がり、急速に国際市場が拡大している現在、そのようなパートナーシップは正に必要不可欠なのであります。多種企業との戦略的パートナーシップ締結を推し進めることは、相互に、プロ集団としての発展・ネットワーク拡充の機会をもたらす、さらに競合他社に対する競争力をも増強します。

結論付けるならば、私は成長を続ける国際市場で効果的かつ優位的に業務獲得の機会を得ることが出来る優良企業になるための最高のツールは異文化間コミュニケーションに関わる「知識」であると信じています。何故か？人々は異文化間コミュニケーション問題を認識・理解し、そしてさらに意識的にこ

これらの問題を解決しようと努力するのは当然であります。コンサルタント企業は異文化間交流において、ミス・コミュニケーション及び誤解により生じかねない対立や摩擦を未然に防止するため、慎重に対応すべきです。これらが理解され実践されたときに初

めて我々は、国際文化的競争力を獲得するための更なるステップを踏み出したと言えるでしょう。

* 参照) French G(2008). “ Communication : A Core Competency ”

寄稿

FIDIC 大会・古今東西

個人賛助会員

技術研修委員会名誉副委員長 竹村陽一

1.はじめに

筆者のFIDIC大会への参加経験は2001年のスイス・モントルー大会から本2008年ケベックまで、7回であり、表題にあるような稿を書く資格にかけますが、「本年および過去のFIDIC大会への参加経験、新規性と過去との比較」という編集部の意図に従って、できる限りを尽くしてみようとするものです。

2.ケベック大会の印象

はじめに今年のケベック大会から述べますと、最初、大会テーマ“ A Strong Industry Serving Society ”の前半のフレーズに若干の違和感をもって参加しました。わが国のConsulting Engineer(CE)産業の現状が頭にあったからだと思えます。

ところが大会が進むに従って、世界には力強いCE産業が現実のものとして存在するのだということに気づきました。カナダにおけるCE企業には目をみはるような成長を遂げているものがあります。カナダ人の参加者に聞いてみましてもCE産業が盛況であることが察せられました。ほかに米国、英国、オーストラリアなどにも元気の良いCE企業が見られます。

カナダでのFIDIC大会は1998年にエドモントン大会がありましたので、丁度10年前です。そのときの大会サブテーマは“ PFI/PPP and Outsourcing ”で、CEの挑戦と機会を目の前にした前夜のような様相だったようですが、10年のうちに、社会に影響力をもつCE産業を目指すまでに発展したことに日本人CEの一人として驚きを禁じえませんでした。この裏には企業の再編成や組織改革など様々な工夫があったのだらうと推測します。(PFI : Private Finance Initiative 民活方式、PPP :

Public Private Partnership 官民連携)

FIDIC大会をどうとらえるかは、これまでに、AJCE会報でもしばしば取り上げられていますが、今回のFIDIC大会で「グローバルとローカルの混じり合いの場」と感じました。グローバル化による機会が広がる一方、そのリスクが忍び寄ってきます。先進国、新興国、途上国と様々な環境下にあるCEが集まっていますが、全体として感じることは、世界はまだ開発を必要としている、然し将来に対する確たる知識を持ち合わせていない、CE産業は社会のために切り開いていかなければならない、という希望と苦悩が混じりあった状況です。

景気の良い国々からの議論がある一方で、苦悩するCEの国々からの発言が聞かれます。その先進国にあっても米国で、エンジニアリング教育の改革が必要であり、将来のCEは幅広く、しかも専門とするところで深く知識を身に付け、専門職として実務の即戦力になれること、そのためには学部以上の履修課程を修了することになるそうです。わが国においても大学の改革、技術専門教育の改革が進んでいますが、これは世界的な趨勢であることを知りました。

CE産業が力をつけるためにという方法論がいくつか議論されました。筆者が参加したのはコミュニケーション力と高品質の提供に関するセミナーです。後者の品質ではこれを良く知っているのはむしろオーナーですので、カナダ、アンマン市、シンガポールからのオーナー講演は示唆に富むものであったと思いました。

3.これまでのFIDIC大会

過去の大会では、最初に参加した2001スイス・モントルー大会のテーマが「持続性ある開発におけるパー

トナー」でした。スイスは鉄道の国であり、また環境意識の高い国で、公共交通の開発の議論がありました。そのときにパートナーとしてあがっていたのは、行政者、交通企業者、輸送機械メーカー、利用者などでした。CEとパートナーとの協働は重要であるとの認識は持っていましたが、強い印象として残っています。その後、パートナーあるいはパートナーシップは大会テーマにしばしば現れています。

開催国はローカル色を示しながら、グローバル化との関係を探ることを、大会招致の目的としていると思います。2002年のメキシコ・アカプルコ大会では「開発における公正性と能力開発」の議論で大いに啓発されました。書いたものを読んだり、人から聞いただけでは、知る深さに限界があるように思います。その点、大会の議論の中に身をおくと、背景とするところや意味するところが、より広く深く理解することができて、応用力も増すように思います。

2005年の北京大会は国をあげてのFIDIC大会の感があり、1991年東京大会以来のアジアでの開催となり、FIDICコミュニティに対しても大きなインパクトを与えたと思います。「持続性あるエンジニアリング グローバルな指導力」がテーマでしたが、中国の持続可能な開発に対する関心の大きさが印象的でした。特に「水」、「エネルギー」、「資源」、「廃棄物」の分野で、大きな課題を有していることが想像されました。21世紀の世界に大きな影響力を持つ中国政府ですが、中国のCEが世界共通の価値理念をもって活動して欲しいと感じました。

社会に対する影響力を持つことは、CE産業が真に社会の役に立つために重要な要素です。米国のように進んだ国はあっても世界大では未だしのところだと思いません。FIDIC大会には例年、世界銀行、アジア開発銀行など国際融資機関から調達部門の専門家が参加して、活動内容、基本方針、政策目標などを発表すると同時にCE産業の状況や意見を吸い上げようとしています。この意味から筆者はかねがね日本の国際援助機関がFIDIC大会に参加されることを、ひそかに願って来ました。

昨年シンガポール大会で国際協力銀行(JBIC)飯島聡部長が「日本のODAとFIDIC」の講演をされることとなり、永年の願いが実現して胸のつかえがとれる気持ちでした。今年のケベック大会でも廣谷AJCE会長が議

長を務められたセミナー「Choosing economic and environmental sustainability」のセッションでJBIC宮尾泰助課長(中川茂雄参事の代理発表)がわが国の見解や主張を述べられたことは立場を強くするものと嬉しく感じました。

100年近い歴史をもつFIDICの大会の流れについて言及する力は到底ありませんが、大胆な仮定もまじえて述べますと、シニアCEのサロンといった時代もあったのではないかと想像します。しかし、時代が進むと共にCEがおかれる環境の変化によって、次第にCE企業の問題を取り上げるようになり、さらにCE産業としての立場を確立する方向へ向いてきていることが感じられます。

大会の内容にも進化が認められ、将来のリーダーたるYoung Professionalの積極的な参加が確か2000年のハワイ大会からフォーラムとして立ち上がり、年々発展を見せていることは大変心強いことです。この裏にはAJCEのシニア、ジュニアCE皆さんの大きな努力と貢献があったことを忘れてはならないと思います。

4. おわりに

FIDIC大会に参加して好ましく感じることは、大会運営がオープンなことです。発表の後には必ず討論の時間がとられ、質疑が交わされますし、また円卓討論(RTD)も行われ、参加者は誰でも、意見の交換が可能です。新しい価値を生み出すためには、重要かつ有用な方法だと思います。議論はいろいろであり、玉石混交という表現もあたっていると思いますが、共通するものは社会の人びとに真に役立つのはCE産業であるという信奉だと思いました。これは私たちが大切にしなければならないものです。力をもちながら機会にまだ十分恵まれていないわが国のCEを感じますが、元気のいい企業も見られますし、持続的なFIDICへの参画によって道は必ず開けると確信します。

最後に、表題を満たすような文章とはなりませんでしたが、筆者の精一杯とご容赦をお願い致します。また、私事になりますが、現役引退の身で何故、FIDIC大会かと訝しく思われる向きもあるかと思いますが、及ばずながら終身CEの心構えを持ちたいそれだけの理由です。よろしくご理解の程をお願い申し上げます。

< 参考資料 > FIDIC 大会開催地とテーマ一覧

年		開催場所	テーマ	備考
1913				1913年 FIDIC創立
1947	S22	Netherlands		
1948	S23			
1949	S24			
1950	S25	UK		
1951	S26			
1952	S27	Denmark		
1953	S28	Belgium		
1954	S29	Switzerland		
1955	S30	France		
1956	S31	UK		
1957	S32	Germany		
1958	S33	Norway		
1959	S34	Netherlands		
1960	S35	Sweden		
1961	S36	Switzerland		
1962	S37	Finland		
1963	S38	UK		
1964	S39	France		
1965	S40	Denmark		
1966	S41	Ireland		
1967	S42	USA		
1968	S43	Germany		
1969	S44	Norway		
1970	S45	Belgium		
1971	S46	Sydney,Australia	ターンキーサービス	後のAJCE創立者達がFIDIC大会に初参加
1972	S47	Sweden		
1973	S48	Netherlands		
1974	S49	Cape Town,South Africa	発展途上国におけるCEの役割	1974年 AJCE設立 FIDIC加盟
1975	S50	Paris,France	CE業務と関連職業との協調	
1976	S51	Ottawa,Canada	CE業務の経営問題	
1977	S52	Helsinki,Finland	CE業務の今後の在り方	
1978	S53	London,UK	プロジェクト保険	
1979	S54	Copenhagen,Denmark	CEの責任と責務	
1980	S55	San Francisco,USA	CE業務のリスク	
1981	S56	Bern,Switzerland	プロジェクトの各段階における金融問題	
1982	S57	Singapore	現代社会におけるCE業務の役割在り方	
1983	S58	Florence,Italy	CLとCEとの関係	
1984	S59	Rio de Janeiro ,Brazil	Research & Development(R&D)におけるコンサルタントの役割	
1985	S60	Viennese.,Austria	Development-Partnership of Interests	
1986	S61	Auckland, NZ	Insurance is an Answer? The Profession	
1987	S62	Lausanne, Switzerland	Facing the Future	1987年 京都開催の準備を進めるが諸般の事情により中止となる
1988	S63	Dublin, Ireland	Value of Engineering	
1989	H1	Washington, USA	Engineering in Global Economy	
1990	H2	Oslo, Norway	Sustainable Development - A Challenge for The Engineering Profession	
1991	H3	Tokyo, Japan	Harmonization between Man and Environment	1991年 日本での開催が実現
1992	H4	Madrid, Spain	The Future of the Consulting Engineer	
1993	H5	Munich, Germany	Urban and Rural Redevelopment	
1994	H6	Sydney, Australia	Consulting Engineer - Challenge of Leadership	
1995	H7	Istanbul,Turky	Global Challenges and Consulting Engineer	
1996	H8	Cape Town,South Africa	The Dynamics of Development	
1997	H9	Edinburgh,UK	Procurement and Management of Construction in the New Millennium	
1998	H10	Edmonton, Alberta,Canada	Re-Inventing The Engineering industry Solution for a Changing World	
1999	H11	Hague, Netherlands	Expanding the Boundaries	
2000	H12	Honolulu, USA	Sustainability, the Challenge of the New Millennium	
2001	H13	Montreax, Switzerland	Partners in Sustainability	
2002	H14	Acapulco, Mexico	Integrity and Capacity Building for Development	
2003	H15	Paris, France	Globalization with Responsible Investment	
2004	H16	Copenhagen, Denmark	Consultancy, Profession or Business	
2005	H17	Beijing, China	Sustainable Engineering - Global Leadership	
2006	H18	Budapest, Hungary	Where the roads meet	
2007	H19	Singapore	Global Services Enhanced Partnerships	
2008	H20	Quebec, Canada	A strong industry, serving society	
2009	H21	London	未定	
2010	H22	New Delhi, India.	未定	
2011	H23	Tunis, Tunisia	未定	
2012	H24	Seoul	未定	
2013	H25	未定	未定	- FIDIC Centenary -

空欄は不明

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

目次

FIDIC-2008 ケベック大会 総括	廣谷彰彦	7	Seminar 8 Planning Success through Succession Planning セミナー8 企業が成功するための後継者育成計画	迫田至誠	34
2008 FIDIC General Assembly Meeting(GAM) 2008年 FIDIC 総会	内村好	10	Seminar9 Business strategies for a changing market セミナー9 変化する市場に対するビジネス戦略	河上英二	35
Plenary Session “ Views from outside ” Dr. Pierre-Marc Johnson, Former Premier of Quebec 全体講演 「外界からの見方」 ビエール マーク・ジョンソン博士	金井恵一	11	2008-2009 Young Professionals Steering Committee Meeting 2008年-2009年 YPF ステアリングコミティ	中島隆志	36
Seminar1 Our Role in the Global Community セミナー1 グローバルコミュニティにおけるCE産業の役割 竹村陽一・渡津永子		12	Young Professional Open Forum ヤングプロフェッショナルオープンフォーラム	赤坂和俊	37
Seminar2 Environmental stewardship and sustainability セミナー2 環境への責務と持続性	赤坂和俊	14	ASPAC (FIDIC Associations in the Asia-Pacific Region) FIDIC アジア太平洋地域協会連合	前田剛和	40
Seminar3 Setting an example : Ethics and Integrity セミナー3 事例紹介:倫理と高潔さ	鍋木孝治	16	President meeting 会長会議	廣谷彰彦	46
Plenary Session Delivering Quality - Client 全体講演 品質の確保 - 発注者の視点	林幸伸	17	Directors & Secretaries Meeting 事務局長会議	山下佳彦	48
Seminar & Workshop4 Communication : a core competence セミナー&ワークショップ4 コミュニケーション:競争力のコア	藤岡和久	18	FIDIC Business Practice Committee (BPC) Meeting ビジネス・プラクティス委員会 会議	宮本正史	49
Seminar & Workshop5 Choosing economic and environmental sustainability セミナー&ワークショップ5 持続可能な経済・環境を選ぶ 春 公一郎		20	FIDIC Sustainable Development Committee (SDC) Meeting 持続可能な開発に関する委員会 会議	春 公一郎	50
It is not how much we do, but how well 宮尾泰助・中川茂雄		23	FIDIC Risk and Liability Committee(RLC)Meeting リスク・マネジメント委員会 会議	藏重俊夫	52
Seminar & Workshop6 Does Risk Transfer Threaten Quality? セミナー&ワークショップ6 リスク転嫁は品質を脅かすか? 藏重俊夫		29	A Report on Young Professional Management Training Program 2008 YPMTP 2008 参加報告	中村公紀	54
Plenary Session Building Strong Organization 全体講演 堅強なCE企業の構築に向けて 山下佳彦		31	Social Program 懇親行事	赤坂和俊・渡津永子	56
Seminar7 Advocacy: A Voice for the Industry セミナー7 主張:業界の声 宮本正史		32	FIDIC2008 ケベック大会に参加して	田中 宏	61
			FIDIC Design, Build and Operate Contract Seminar FIDIC 設計・施工・運営一括契約方式の契約条件書 セミナー	迫田至誠	62

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

FIDIC-2008 ケベック大会 総括

株式会社オリエンタルコンサルタンツ 社長
社団法人日本コンサルティング・エンジニア協会 会長 廣谷彰彦

1.はじめに

(社)日本コンサルティング・エンジニア協会(AJCE)は、日本のコンサルタントの代表として、国際コンサルティング・エンジニア連盟(FIDIC)に加盟している国内唯一の組織である。

FIDICは、世界各国・地域・経済のコンサルタント協会を会員とし、事業にかかる契約文書の発行をはじめ様々な活動を展開し、コンサルタント産業の普及・発展に努力している。

AJCEでは、このようなFIDICとの連携を深めながら、選定方法をはじめコンサルタントが抱える課題の検討・提案を積極的に行うとともに、そこから得られる各種情報を、会員の皆様を通じて、顧客、また広く国民の皆様に向け、提供、普及、啓発を行っている。

2.大会概要

今年のFIDIC年次大会は、カナダのケベック市において、2008年9月7日(日)~10日(水)の会期で開催された。

今年度は、「A Strong Industry Serving Society ~社会に貢献する強力な産業~」をテーマに、世界60もの国と地域から750名を超える参加者が、世界遺産に登録されたこの美しい都市に会した。日本からは、AJCE会員と同伴者、そして国際協力銀行(10月1日より国際協力機構)の中川茂雄参事、京都大学より大本俊彦教授、合計29名が参加した。

今大会では、上述の大会メインテーマのもと、サブテーマとして Influencing Society、 Delivering Quality、 Developing Strong Organizationsの3つが掲げられ、合計38名の講演者が各テーマに沿った講演を行った。それぞれのセミナーやワークショップの場では、講演者と参加者が一体となって、有意義で活発な議論が展開されていた。

FIDICには6つの常設委員会が設置されており、AJCE会員はそれぞれの委員会に参加し、その活動に大きく貢献している。今大会においても、早朝から夕刻まで、多数の会員が委員会活動等に参加し、AJCEの存在感を一層高めた。

また現在AJCEは、FIDICのアジア・太平洋地域組織(ASPAC)の議長国を努めている。今大会においては、定例の理事会や総会において、ASPAC地域におけるコンサルタントの能力開発に関わるプログラムや若手技術者フォーラムの設置を提案した。加えて、オープンフォーラムやネットワーキングランチなどを通じて、地域のメンバーが抱える問題の共有、情報交換を行い、交流を更に深めることができた。

3.終わりに

今大会においては、2013年の創立100周年に向けて、FIDICが、コンサルタント産業の声・牽引役としての責務を確認し、より一層のリーダーシップを発揮していくことを強力に印象づけていた。

また我々が、社会に貢献し続ける力強い産業となるためには、「質の高いサービス」「持続可能性への貢献」「技術者としての行動規範」「自らの変革」「高い収益性」などが重要であることを、参加者の間で共有することができた。

我々コンサルタントは、目まぐるしく変化する社会や人々のニーズを的確に読み取り、また自ら変革し続け、持続可能な社会の発展に寄与していかなければならない。

こうした責務を会員の皆様と共有し、クライアントやユーザーの皆様の信頼獲得、コンサルタントの地位向上に向けて、国内外へ向けた提案を積極的に行っていく所存である。

FIDIC-2008 ケベック大会

開催期間 : 2008年9月7日(日)~ 10日(水)

会場 : カナダ・ケベックシティ

Fairmont Le Chateau Frontenac

メインテーマ : A Strong Industry Serving Society ~ 社会に貢献する強力な産業 ~

サブテーマ : Influencing Society

Delivering Quality

Developing Strong Organizations

参加者 : 約60ヶ国、750人(日本からは29人)

プログラム : 大会期間は9月7日~ 10日の4日間ですが、大会開催に先立ち、4日からFIDIC理事
会・常設委員会・会長会議等が開催されました。

プログラム

THU 4 Sep

FIDIC Executive Meeting, Part 1

FRI 5 Sep

FIDIC Executive Meeting, Part 1

FIDIC YPMTF working sessions

SAT 6 Sep

FIDIC YPMTF working sessions

Directors & Secretaries Meeting

SUN 7 Sept

FIDIC YPMTF working session

FIDIC Member Committee Meeting

FIDIC Integrity Management Committee Meeting

FIDIC Business Practice Committee Meeting

FIDIC Sustainable Development Committee Meeting

FIDIC Capacity Building Committee Meeting

FIDIC Risk and Liability Committee Meeting

FIDIC Presidents Meeting

FIDIC ASPAC Executive Meeting

FIDIC GAMA Executive Meeting

Young Professionals Steering Committee Meeting

Welcome Reception: Musée National des Beaux-Arts

MON 8 Sept

Opening Ceremony

Plenary Session 1

Seminar 1 Our role in the global community "

Seminar 2 Environmental stewardship and sustainability"

Seminar 3 Setting an example: Ethics and Integrity"

Regional Report - ASPAC-Asia: Session 1

Regional Report - GAMA-Africa Session 2"

Young Professionals Open Forum

TUE 9 Sep

Plenary Session 1

Seminar 4A Communication: a core competence"

Seminar 5A Choosing economic and environmental sustainability"

Seminar 6A Does risk transfer threaten quality?"

FIDIC ASPAC Networking Lunch

Workshop 4B Communication: a core competence"

Workshop 5B Choosing economic and environmental sustainability"

Workshop 6B Does risk transfer threaten quality?"

FIDIC ASPAC GAM

WED 10 Sep

Plenary 3 - Industry Leaders

Seminar 7 Advocacy: a voice for the industry

Seminar 8 Planning success through succession planning

Seminar 9 Business strategies for a changing market

Plenary : Conference Reports

FIDIC GAM

Gala Dinner

THU 11 Sep

FIDIC Executive Meeting Part 3

FIDIC DBO Contract Seminar



会場 : Fairmont Le Chateau Frontenac ホテル

FIDIC-2008 ケベック大会 参加者 一覧

所 属		氏 名
賛助会員		竹村 陽一
エヌジェーエス・コンサルタンツ	代表取締役社長	竹内 正善
オリエンタルコンサルタンツ	代表取締役社長	廣谷 彰彦
オリエンタルコンサルタンツ	本社	渡津 永子
オリエンタルコンサルタンツ/ ACKグループ	本社	藤岡 和久
建設技研インターナショナル	業務本部 営業企画室 室長	前田 剛和
建設技術研究所	常務取締役 九州支社長	内村 好
建設技術研究所	企画本部 経営企画部 担当部長	河上 英二
建設技術研究所	企画本部 経営企画部 部長	金井 恵一
建設技術研究所	企画本部 国際部 技師長	鏑木 孝治
長大	東日本構造事業部 構造計画2部	中村 公紀
田中宏技術士事務所	所長	田中 宏
東京設計事務所	代表取締役副社長	宮本 正史
日水コン	東京下水道事業部 副事業部長	春 公一郎
日水コン	河川事業部副事業部長	藏重 俊夫
日水コン	東京下水道事業部2部1課	赤坂 和俊
日本工営	コンサルタント海外事業本部エネルギー開発 部副技師長	迫田 至誠
日本工営	コンサルタント海外事業本部 都市環境部	山寺 彰
早房技術士事務所	所長	早房 長雄
京都大学	教授	大本 俊彦
日本工営	コンサルタント海外事業本部 民活プロジェ クト部 部長	林 幸伸
AJCE	事務局長	山下 佳彦
国際協力銀行 (JBIC)	プロジェクト開発部 参事	中川 茂雄

日本人参加者23名
 同伴者 6名
 計29名

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

2008 FIDIC General Assembly Meeting(GAM) 2008年 FIDIC 総会

株式会社建設技術研究所 常務取締役九州支社長
AJCE 副会長 **内村 好**

1. 総会概要

開催日時：2008年9月10日(水)16:00～17:15

開催場所：Hotel Chateau Frontenac, Quebec

出席国：62カ国登録(出席はその約2/3)

日本代表団：廣谷会長、内村副会長、宮本副会長

2. 議事概要

2.1 2007年活動報告

J.Boyd会長の挨拶に引き続き07年度のシンガポール大会の総会の議事録、07-08年次報告書、07年会計報告・監査が滞りなく承認された。2007年度の収入は2,785千SF(スイスフラン)(約278百万円)で06年度より出版事業の増収により30%の大幅増。支出は2,521千SF(約252百万円)である。収入のうち会費が4割弱、出版収入が5割弱を占める。

2.2 入退会の承認

今年度は新たな正会員の入会はなかったが、下記の2協会が新たに準会員(Associate Member)として承認された。また、アルベニア協会は準会員への移行を検討中であるとの報告があった。

AECU - Association of Engineering Consultants Ukraine
ウクライナ

UZACE - Uzbek Association of Consulting Engineers
ウズベキスタン

また、タイ協会(CEAT)は会費未納のため除名が承認された。Affiliate Member(賛助会員)として仏、スイス、カナダ、UAE、エチオピアの企業が承認された。

2.3 定款、細則の変更

定款の公式言語はこれまで、英、仏、独、西の四ヶ国語だったが、これを英語に統一化し細則も関連条項を変更することが承認された。

2.4 2009年の予算、会費の承認

2009年度の予算および各国協会の会費が承認された。収入は2,575千SF、支出は2,600千SFでいずれも08年度予算の10%強の増である。

会費については、米国が最大(上限)で会員従業員数302千人で121千SF(投票権6票)以下、英国とフランス36千人79千SF(5)、カナダ34千人76千SF(5)、スペイン23千人59千SF(5)、ドイツ23千人57千SF(5)である。ちなみに日本は5千人18千SF(3)で17番目、中国20千人40千SF(LDC割引4)、韓国4千人12千SF(2)である。

2.5 次期会長選任

来年退任する予定のカナダのJohn Boyd氏に引き続く次期会長に米国のGreggs Thomopoulos氏が選出された。来年のロンドン大会ではアジア選出の2名を含む4名の理事が退任予定である。

2.6 新理事の選出

退任するデンマークのPedersen理事の後任に下記2名が立候補し、Gobiet氏が選任された。

Andreas GOBIET, Austria	134票
Karamat Ullah CHAUDRY, Pakistan	31票

2.7 2012年および2013年大会開催地の選定

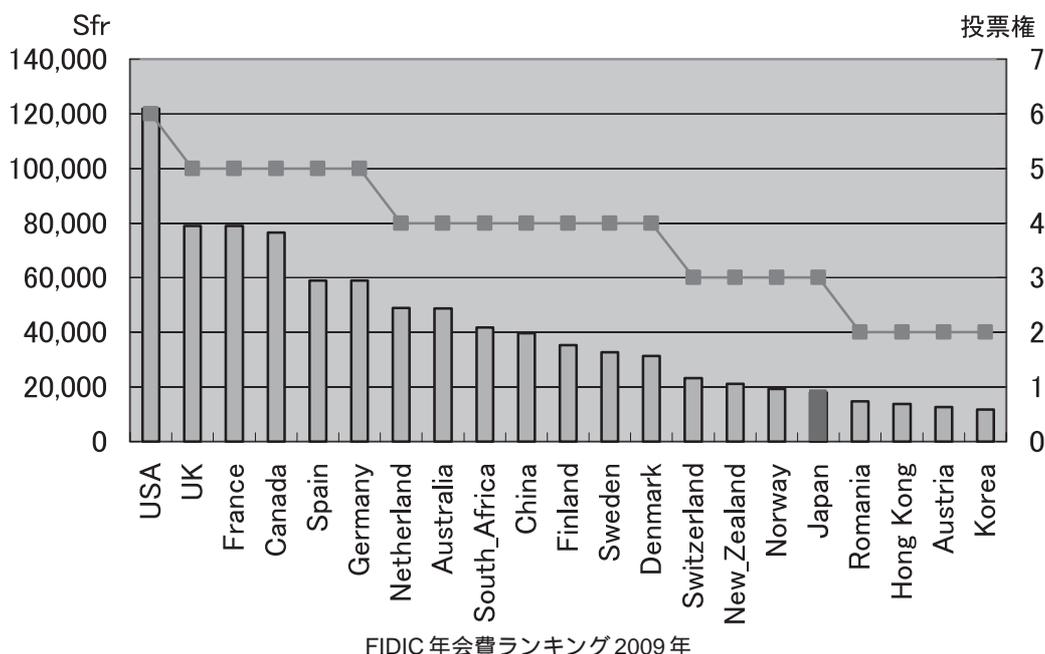
2010年に一度立候補しインドに譲った韓国が再度立候補し、無投票で2012年の開催地となった。

FIDIC創立100周年となる2013年大会開催地については、従来の立候補方式をとらずFIDIC本部に委員会を作って検討することとなった。この結果、今後の開催予定は次の通りである。

2009年ロンドン(英国)9月13-16日、2010年ニューデリー(インド)9月12-15日、2011年チュニス(チュニジア)、2012年ソウル(韓国)、2013年???(FIDIC100周年)



写真： GAM に出席した FIDIC 理事（左から 3 人目より Thomopoulos 次期会長、Boyd 会長、Enrico 事務局長）



特集： FIDIC-2008 ケベック大会報告

Plenary Session “ Views from outside ”

Dr. Pierre-Marc Johnson, Former Premier of Quebec

全体講演 「外界からの見方」 元ケベック州知事 ピエール マーク・ジョンソン博士

株式会社建設技術研究所 企画本部経営企画部長
技術研修委員会副委員長 金井 恵一

9月8日の大会初日は、オープニングセレモニーの後、第1回目の全体会議に入り、ピエール マーク・ジョンソン元ケベック州知事が「Views from outside (外界からの見方) と題した講演を行った。

ジョンソン氏は、法律家兼内科医で科学的・論理的な思考を好み、エンジニアと一緒に仕事をすることが大好

きだと自己紹介をし、その理由として「科学的なアプローチ」「厳格な思考」「旺盛な知的的好奇心」の3つのエンジニアの特質を上げた。

講演の冒頭、2006年9月にモントリオール近郊で発生した高速道路を跨ぐ陸橋の崩落事故に触れ、事故調査委員会を率いて原因解明にあたった経験から公共の安

全に関わるリスクの重大性をあらためて認識するよう訴えた。

講演のテーマはグローバリゼーションに集中し、「市場原理」と「エレクトロニクスパワー」に駆られた現代のグローバリゼーションの下では、商品、資本、アイデア、人の移動が飛躍的に拡大し、結果として、米国の金融問題にみられるように、今や国内問題でさえも一国の政府だけでは解決できない状況になっていると指摘した。また、急速なグローバリゼーションがもたらす懸念として3点を挙げた。第1点は、地球環境の問題で、大量の化石エネルギーの消費が地球規模の気候変動をもたらしており、全世界の排出量の83%を占めるG21諸国の対策が、その低減ではなく気候変動への適応策に偏っていることに不満の意を表した。2点目は人材の流動化で、良質なプロフェッショナル人材の国外流出と、外国からの人材流入による雇用機会の減少の両面から関心がもたれていることを指摘した。3点目は資本の匿名性の問題を取り上げ、今や企業の真の所有者の姿が誰なのか見えにくくなっており、そのため説明責任の所在が不明瞭になっていることが、本来あるべき市場の原理・

原則と矛盾していることに疑問を呈した。

こうした市場の巨大化に伴い、競争は激化しているが、一方で移動が自由になった資本は最終的に「品質」と「将来にわたる確実性」を求めるものであり、我々プロフェッショナルは、「忍耐力」「変化する世界への適応力」「循環する知識への適応力」を持つ必要があると訴えた。また、自分の会社が世界の変化に十分にスピード感を持って対応しているか、常に確認する義務がマネージャーにはあるとも指摘した。

公共部門との関わりにおいては、PPP(Public Private Partnership : 官民連携)などを通じて民間の哲学・ルール、説明責任などを浸透させるべく努力がなされているものの、まだまだ公共側の理解は不十分で、抵抗も根強いことを披露した。一方で、諸問題への解決策を提示してくれる者への評価・信頼は大きく、この点において Consulting Engineer(CE)は大きな強みを持っていると強調した。

最後に、エンジニアと一緒に仕事をすることの喜びに再び言及し、気候変動問題への対応におけるエンジニアの貢献に期待感を表明して、講演を締めくくった。

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

Seminar1 Our Role in the Global Community セミナー1 グローバルコミュニティ におけるCE産業の役割

賛助会員 株式会社オリエンタルコンサルタンツ 社会環境事業部
技術研修委員会名誉副委員長 竹村陽一 国際活動委員会 渡津永子

1. セッションの概要

日時：2008年9月8日 14:00 ? 15:30

場所：Salle de Bal, Chateau Frontenac

議長：Flemming Bligaard Pedersen, Ramboll,
Denmark

講演者：Jeffrey Russel, University of Wisconsin, USA
Sabine Engelhard, Inter American Development
Bank, Washington

グローバル化が進む中で Consulting Engineer(CE)産業はかつてなかったような影響力をもつ機会に直面しているが、同時にリスクにも遭遇する。本セミナーはグローバル経済の専門家が機会とリスクをとりあげ、CE産業がもてる専門知識によっていかに影響力をふるえるかを明らかにする。

参加者はこのような影響力がCE産業の利益だけでなく、社会が必要とする社会、経済および環境のインフラ

整備をとおして役立つことを学ぶ。

2. 講演 エンジニアリング教育のレベルを上げるとき : Russel 教授(ウィスコンシン大)

米国において過去数10年にわたって、エンジニアリング教育を改革する議論があったことに言及したのち、最近のASCE(米国土木学会)とNAE(米国エンジニアリング・アカデミー)による2つの調査を紹介し、米国の土木エンジニアが21世紀の挑戦に立ち向かうためには、エンジニアリング教育の強化が必須であるとの認識が広く高まったことを述べた。その概要は以下の通りである。

エンジニアリング専門職が身につけるべきこと

- ・ Organization(組織論)
- ・ Ethic of Professional Services(職業倫理)
- ・ Body of Knowledge(知識体系)

このうち、Body of Knowledge(知識体系)は知識、スキル、態度、実践が重要であり、自然科学、数学、社会科学、人文科学の4本の柱を基礎とし、その上の3層の構造からなる。

Body of Knowledge を構成する4つの柱と3つの層
基礎(4つの柱); 自然科学、数学、社会科学、人文科学
第1層; 基礎的な工学(Technical); 材料学、力学
から設計、Project Managementまで含む。

第2層; 専門家としての実務(Professional practice)

第3層; 深い専門工学(Deep technical)

現在のエンジニアリング教育の問題点は、履修年限4年、履修単位130と少ないことである。これに対し、医学、薬学、法律、会計などの専門職は時代とともに増加させている。ASCEの政策ステートメント465では、将来、土木エンジニアリングの専門職につく場合は学部以上の教育を修了するものとする。

最後に教授は、将来をどうとらえるか、に対して次の3点の切り口をあげた。

- ・ プロジェクトの複雑化(Increasing complexity)
- ・ グローバリゼーション
- ・ 公衆の健康、安全、福祉の擁護

3. 講演 グローバルコミュニティにおける米州開発銀行(IDB)の役割

: Engelhard 女史 上級調達専門家

ラテンアメリカとカリブ海26カ国を対象とし、1961-2007で1,560億ドルの貸付、プロジェクト総額は3,530億ドルに達するIDBの使命、価値理念、達成目標・方法などについて発表があった。

使命と価値理念(IDB の設立憲章より)

- ・ 持続する変革の触媒となる
- ・ 各国と全地域の経済・社会開発の加速に貢献する
- ・ 不正、汚職の撲滅を目指す
- ・ 倫理価値を政策や手続き形成の基礎とする

達成目標

- ・ 貧困低減
- ・ 最大多数への機会供与
- ・ 教育と技術革新
- ・ 水と衛生の対策
- ・ 気候変動対策としての持続可能エネルギー
- ・ 援助に対する新しいアプローチ; 関係者の間にパートナーシップ概念
- ・ 開発における各国の所有権の強化
- ・ 開発におけるより効果的な広いパートナーシップの構築
- ・ 開発効果をもたらす、説明責任をまっとうする

4. Q&A セッション

FIDICのJ.Boyd会長をはじめ、インド、ナイジェリア、ノールウエー、南アフリカなど7人の参加者から質問やコメントがあった。

CE産業の影響力が主題のセミナーであったので、IDBに対してFIDICは何ができるのかというJ.Boyd会長の質問は的を射たものと思えた。Engelhard女史は現地を知っているのはCEであり、専門職能をもって影響力を発揮できると答え、IDBはFIDICと対話を行ってきたし、これからも行うとのことであった。

エンジニアの訓練に関しては、設計や社会の問題を大学で教えることが、本当にできるかという疑問の声が挙がった。Russel教授は確かに教えることができないものはあるが、解析力やBody of Knowledgeを大学で身に付けることで、実務での能力アップが図れると答えた。

5.まとめ - 全体としての感想

CE産業の影響力という大きな問題は、一つのセミナーでカバーしきれものではない。エンジニアリング教育という一つの側面からこの問題を考える機会があったと理解すべきであろう。

未来に関して、従来からの知識だけでは十分でない現実があるという認識のもとに、CE産業がもてる力に新

しい力を養い、これを加えて、社会の現在ならびに未来のニーズに応えられるよう力強くなるべきだという思いを強くした。

なお、講演を予定していたカナダきってのコミュニケーション・コンサルタント Rick Petersen 氏が急用のためキャンセルされたのは残念であった。

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

Seminar2 Environmental stewardship and sustainability セミナー2 環境への責務と持続性

株式会社日水コン 東京下水2部1課
国際活動委員会 赤坂和俊

日 時：2008年9月8日(火)14:00-15:30

場 所：Place d'Armes, Chateau Frontenac

参加者：約40名

Moderator：William A Wallace (USA)

Facilitators：Arthur Taute (South Africa),

Terry Bennett(USA),

Ed Nijpels(Netherlands)

1. セミナーの目的

本セミナーは、環境に対するこの挑戦の深刻な側面のいくつかを調査する。そして、コンサルティングエンジニアの役割を検討していくことを目的とする。

2. 概要

環境への責務や持続性(Environmental stewardship and sustainability)という視点が、これまで一般的に認識されていなかったし、政治的な支援においてもなかった。

一方、我々は、世界の人口が増加していること、再生可能な資源が有限であること、再生できない資源の量が少なくなっていること、等、多くの問題を既に認識している。

このような状況の中、ここでは、地球環境という大きな視点で、現在起こっている様々な変化(環境問題)に

ついて説明があり、コンサルティングエンジニアとして、今後考慮すべき環境に配慮したデザインや設計事例の紹介がなされた。

2.1 今発生している問題

(1) 現状

現在の経済発展の形は、持続可能なものではない。資源や環境容量が回復するよりも早く、それらを使い果たしてしまうだろう。

すでにリミットが近づいている。

(2) 環境変化

地球規模で前例のない環境変化が目に見えて発生しており、その変化は我々の想像を超えたスケールと速度で発生している。

都市域問題(都市スプロール現象、交通渋滞、水不足等)

数多くの自然災害の発生(洪水、干ばつ、地震、等)

(3) 障害

変化への無知と否定

エネルギーと資源集約型のテクノロジー(環境的に有害なテクノロジー)への投資

現在の成功や経歴を捨てることができない

現在の「快適さ」から外側に踏み出せない

(4) 問題点

非持続性がリアルで緊急な問題である。
 エンジニアリング産業は、独自で様々に発生している問題に対処する能力を有している。
 機会も多いが、しかし、障害も多い。
 これらの問題に対処するために必要なツールや方法論を開発する必要性

2.2 事例 (USA : Business Model Implications of Sustainability)

持続可能性のためのビジネスモデルの事例を紹介していた。

現在、持続可能なデザインが原則的に必要条件となっている。

BIM(Building Information Modeling)は、デザイン、コンストラクション、オペレーションー連としたプロジェクトに関する信頼できる情報によって築き上げられる統合化プロセスであり、このプロセスを導入することで、初段階から、持続性問題に対処している。

持続可能なデザインは、全てのプロジェクト(段階)でアプローチしなければならない。

Engineers、Architects、Contractors、Owners等は、プロジェクトプロセスにおいて持続可能なデザインと整合させねばならない。

設計のプロフェッショナルのためのものだけでなく、地球にとって正常なものという視点が重要である。

2.3 事例 (オランダ)

持続可能な青いエネルギー(海の潮流): 海水と淡

水の間塩濃度の違いからエネルギーを再生
 高速道路に天蓋 : 空気を改善して、騒音を減らす
 方法

病院施設の効率的な廃棄物管理システム : 生物処理を活用した廃棄物の処理システムによる廃棄物の削減

情報、探索 (課題)、ビデオ、および教育的なゲーム等を活用した気候変動に対する対話型ポータル
 の導入

コンサルタントとしての役割は、次のように環境に対する働きかけが必要であるとコメントしていた。

コンサルティングエンジニアには、社会に提供できる様々な技術を有している。その役割も大きい。
 コンサルティングエンジニアには、より大きな役割があり、もっと中々腰を上げないクライアントやオーナーに働きかけるべきである。

3. おわりに

環境問題に関しては、色々な状況をニュースなどで報じられている現象として見知っているのはいるが、現実的に一コンサルタントとして、技術的なアプローチ手法について、厳密に議論した経験は非常にまれである。

ここでは、環境に配慮したデザインや施設について、既にも実施されている、若しくは提案されているものの事例紹介であり、非常に興味深いものであった。

コンサルティングエンジニアとして、すぐそこに迫ってきている環境問題に対して、現在携わっているプロジェクトがどの位置づけにあるのか、今後そういう視点でプロジェクトに関わっていきたいと感じた。

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

Seminar3 Setting an example : Ethics and Integrity セミナー3 事例紹介：倫理と高潔さ

株式会社建設技術研究所 国際部
国際活動委員会 鍋木 孝治

1. セミナー概要

日時：9月8日、14：00 - 15：30

場所：Jacques Cartier 室にて

参加者：

モデレータ：Dr. Felipe Ochoa, FOA Consulting

FOA コンサルタント社(メキシコ) 会長

パネラー 1：

Mr. Exaud Mushi, NORPLAN Tanzania Ltd.

NORPLAN タンザニア社(タンザニア) マネジ
ング・ディレクター

パネラー 2：

Mr. Stephen Zimmerman, Inter-American
Development Bank

IAD Bank(アメリカ) OII(組織的高潔さ室)主任

パネラー 3：Mr. Renko Campen, DHV

DHV 社(オランダ) 社長

講演概要：

・モデレータ：FIDICの取り組みの歴史的経緯

FIDICでは早くから問題の重要性の気づき問題に取り組み始めた。その後、世界銀行も問題の重要性に気づき、FIDICの取り組みを支援している。この問題には「供給サイド」と「要求サイド」が登場するが、両者に対処して初めて解決がある。「供給サイド」にはBIMS (Business Integrity Management System) が、「要求サイド」にはGPIMS (Government Procurement Integrity

Management System) が対応策として準備されている。

・パネラー 1：被援助国の視点からの問題

能力のない者が事業に参加しようとする汚職がはじまり、結果的に品質の低い商品を受け取ることになる。開発途上国では、事業の多くが海外の企業により行われており、汚職を作り出しているのは海外の企業の責任も多い。国内での汚職を防ぐための法律的枠組みも整備しているが、技術者が汚職に手を染めないよう、能力を継続的に高めることも重要である。

・パネラー 2：融資機関の立場での問題への取り組み

融資機関では汚職防止のため専門の独立機関を設置して活動している。各種の手法を開発し、研究結果も公表に努めている。一方で、司法権がないため、捜査効率に限界があり、調査と防止のいずれに重点をおくかというジレンマもある。汚職を防ぐためには、調査 / 防止 / コミュニケーションをループでまわすことが重要である。

・パネラー 3：現在の主要な対策であるBIMSの有効性

BIMSはISOに従って作られ、ネットで簡単に取得できるが、一方、現実の社会では汚職がはびこっている。汚職の防止には各種情報の有効活用とともに、BIMSを更に発展させることが必要である。

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

Plenary Session Delivering Quality - Client 全体講演 品質の確保 - 発注者の視点

日本工営株式会社 民活プロジェクト部 部長
技術研修委員会副委員長 林 幸伸

1. 趣旨

9月9日朝の全体セッションとして9:00~10:30に開催されたもので、プロジェクトの品質に重大な影響を持つコンサルタントに対する発注者の視点を4人のプレゼンターに語ってもらう、という趣向であった。プレゼンターとなった発注機関は、1)Hydro-Quebec(カナダの水力発電事業者)、2)Rio Tinto Alcan(カナダの資源開発会社)、3)ヨルダン国アンマン市、4)シンガポール公共施設局、と多彩な顔ぶれであり、ウガンダのMBWコンサルタントのM. Patric Batumbyaがモデレーターを務めた。

2. 内容

各クライアントの事業内容およびコンサルタントへの期待と要望は以下の通りであった。

1) Hydro-Quebec(Real Laporte 関連企業社長):

ケベック州の発電・送電事業者であり、41,000MWの発電量を有する。97%が水力であり、水力発電所や送電線の建設においてコンサルタントとの関係がある。風力も増強中。

プロジェクトの成功で最も重要であるのはチームワークである。問題を素早く解決するクライアントのパートナーであるべきである。関係者との効率的なコミュニケーションを図り、ベストプラクティスの提供と共有を期待する。

2) Rio Tinto Alcan(Jean Simons 関連企業社長):

2007年にRio Tintoグループに併合された世界最大級のアルミニウムの資源開発会社。施設として、6つのボーキサイト鉱山、23のアルミニウム製錬所、13の発電所(内、水力は9箇所)を有する。

クライアントとのチームワークが重要である。コンサルタントはプロジェクトの技術面での目的を、環境側面や経済的側面を最適化しながら達成する使命を持つ。エンジニアリング企業はプロジェクト品質の中核(センター)である。最適ナリソース(人材)の

投入やマネジメントツールの活用が必要である

3) ヨルダン国アンマン市(Omar Maani アンマン市長):

アンマン市の人口は現在約200万人であるが2025年には600万人を超える成長が見込まれている。古都であるが若年人口の比率が高い。現在、居住者や訪問者に優しい生活環境を優先した開発が進められている。

開発計画にはコンサルタントが大きく関与するが、利用者である人間を本位とした街づくりを目指している。行政サービス、経済活動、環境、衛生、教育、社会的公正が都市機能のレベルを計るためのベンチマークである。

4) シンガポール公共施設局(Young Joo Chye 副局長):

シンガポールでは「水」は大変貴重な資源であり、雨水利用、人口貯留、海水淡水化、水再利用を通じて、水の安定供給を目指している。ABCプログラム(Active, Beautiful, Clean)の基で、水関連インフラの開発が進められている。

開発の成功のためには、発注者、コンサルタント、コントラクターの3者パートナーシップが不可欠である。過去の経験から、あらゆる階層におけるオープンなコミュニケーション、最適ナリスク配分、機能ベースのスペック、複合的アプローチ、品質を考慮したパートナー選定が重要なポイントである。中立的で独立性のあるコンサルタントが必要。

3. まとめ

プレゼンテーションにおいて、度々語られたキーワードは「チームワーク」、「コミュニケーション」、「クオリティ」、「パートナーシップ」であった。特に、コミュニケーションの重要性が各氏から強調され、クライアントとしてコンサルタントとの密接なコミュニケーションを渴望していることが印象的であった。コンサルタント業界として、反省すべきヒントがあると感じた。

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

Seminar & Workshop4 Communication : a core competence セミナー&ワークショップ4 コミュニケーション：競争力のコア

株式会社オリエンタルコンサルタンツ GC事業本部副本部長
藤岡和久

日 時：2008年9月9日

セミナー：11：00～12：30,

ワークショップ：12：30～14：00

場 所：Salle de Bal, Chateau Frontenac

議 長：Geoff French, Scott Wilson, UK

話題提供者及びワークショップファシリテーター：

Debra Rubin, Editor-at-Large, Engineering
News Record, USA

James Bremen, Partner Maxwell Winward,
London, UK

Suzanne Stevens, President & Founder, Ignite
Excellence, Canada

サービスのクオリティが、クライアントの要求を理解する能力に左右されるものであるならば、コミュニケーション力はクオリティのカギとなる。事実、過去の経験から、コンサルタントに対する契約上の争議、要求事項、及び訴訟の大部分は純技術的事項ではなく、コンサルタントとクライアント、時には公定機関との間の異なる要求によるものが殆どである。そのような問題に対する解決策は、技術的、科学的、或いは環境保全型的な観点からのみではなく、社会的、経済的及び政治的な期待に応えられるかによるものであることが多い。これらの要求に応えるためには、エンジニアリングコンサルタントにおける職業人にとって、それらを科学的に説明できる言語能力と、社会及び顧客のニーズとの折り合いをつけられる能力を身に付けることが求められる。

1. セミナー

本セミナーは、顧客満足、商業的成功及び公共政策との妥当性に関して、コミュニケーションの重要性を検討するものであった。

まず始めに、顧客とコンサルタントの関係とプロジェ

クトを成功させることに関して、コミュニケーションが如何に重要であるかを3人の専門家からの実例によるプレゼンテーションを頂き、その後それぞれの専門家の指導によるワークショップを行った。

< Debra Rubin, Editor-at-Large, Engineering News Record, USA >

- エンジニアにとって「語る」ことは何故必要か -
メディア(出版物やインタビュー)を上手く使いこなす
エンジニア自身が発信情報の鍵を握る
プロジェクトマネージャーに要求される重要な役割

< James Bremen, Partner Maxwell Winward, London, UK >

- コミュニケーション クオリティの改善 -
契約交渉時

関係者の合意を反映した明瞭な書類の作成と交渉に時間をかけ、合意内容をチェックする
後日に問題を先送りしないように、初期段階で難しい問題を討議する

文化的バックグラウンドの違いと明らかにする
プロジェクト実施期間

プロジェクト実施及び契約の管理

- i. 契約管理を行う人間が契約交渉を行うべき
- ii. 個別の契約に対する管理手順
- iii. 契約と管理を理解する十分な時間の必要性



その効用

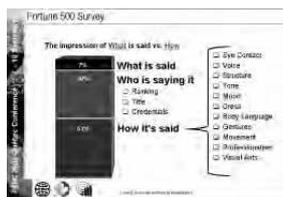
- i . 問題点の早期発見
- ii . コミュニケーションを取る担当者の明確化と問題の早期解決
- iii . 解決策が見つからない場合の、表面化した紛争に対する担当者のポジショニング

問題発生時

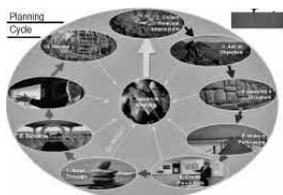
契約管理システムが問題点を早期発見できる場合問題に対して対立するより協調することを明言する妥協を受け入れ、他者の期待を理解する忍耐強く聞く

< Suzanne Stevens, President & Founder, Ignite Excellence, Canada >

- 焦点に着火する: 最も伝えたい事項を効果的で魅力あるプレゼンテーションに込める -



・聞き手の興味は何か？



・効果的なプレゼンテーションのプランニングサイクル

2 . ワークショップ

後半のワークショップでは、以下3つのテーマに対し4グループに分かれ、それぞれ討論と最後にグループ毎の発表を行った。

それぞれのトピックに3～4の討論小題があるため、個別に討論を掘り下げる時間がなかったことが残念であったが、それぞれのグループでは、活発な議論が展開された。

<トピック A >

エンジニアは良きコミュニケーターたる適性を持っているか?もし無いのであれば、どのようにそれを備えるか?もしコミュニケーションがエンジニアリングの基本的

学位であったならば?

報道は全て良い報道か?

プレスは敵か味方か?

<トピック B >

契約文書において、顧客とどのように敵対関係を作らず目的達成を明記できるか?

プロジェクトの争議発生時に悩まされないよう、Eメールや連絡文書をどのようにマネージするか?

契約文書に使用する言葉に対する共通の理解を、コンサルタント、オーナー、及び請負業者間でどのように得られるか?

プロジェクト実施期間中、異なる文化における最良のマネージ方法は何か?

<トピック C >

「信頼されるアドバイザー」の意味は何か?

「社会へのアドバイザー」として信頼されることからの阻害要因は何か?

「信頼されるアドバイザー」になるための必要な技術は何か?

3 . おわりに

プロジェクトの遂行や競争力を発揮する上でのコミュニケーションの重要性は、我々も十分理解している。またそれらに関するセミナーも日本国内で多数開催されているが、日本以外の国で、多数の外国人と一緒にこのテーマで参加・意見交換するのは、また違った雰囲気があり意義深いものを感じた。日本人にとっては、このような環境のワークショップ参加には、言葉の問題もあり不慣れであるが、このような「他流試合」へ積極的に参加し、「技を磨く」ことは大切であろう。



特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

Seminar & Workshop 5 Choosing economic and environmental sustainability

セミナー&ワークショップ5 持続可能な経済・環境を選ぶ

株式会社日水コン 東京下水道事業部副事業部長
政策委員会副委員長・技術研修委員会幹事 春 公一郎

日 時：2008年9月9日（火） 11:00～12:30（セミナー） 14:00～15:30（ワークショップ）

場 所：ホテル・シャトー・フロントナック Place d'Armes

議 長：廣谷 AJCE 会長

講演者：Peter Steblin（カナダ・コクイットラム市）
Linda Newton
（カナダ政府・Defense Construction）
中川茂雄参事（日本・国際協力銀行）

1.はじめに

廣谷 AJCE 会長が議長を務めたセミナー及びワークショップである。品質と持続可能性は極めて密接に関係しており、経済的・環境的に持続可能性の高いプロジェクトを実現するためには、ハイクオリティなコンサルタントに委ねるのが道理であり、そのためには QBS（Quality Based Selection：品質・技術による選定）が不可欠なのだという趣旨であった。セミナーの講演者はクライアント・金融機関の方々であり、よき理解者からのエールと受け取れる内容であった。

2.品質への旅路～コンサルタント選定方法のトレンドと実践例（ピーター・ステブリン）

カナダでは従前 QCBS（Quality and Cost Based Selection：品質・技術と価格による選定）によるコンサルタント選定が行われてきたが、昨年のシンガポール大会で、QBSに移行しつつあるとの話があった。ステブリン氏の講演は、この話を裏打ちするものであり、まさに自身が QBS 導入に尽力してきた経緯を辿る内容であった。

氏は、カナダ・ロンドン市在職時代の 2004 年、QCBS 方式の改善に着手し、関係者や市民との対話

を進めていった。その背景には、ライフ・サイクル・コスト（LCC）において設計費は 1% に満たないのだから、イノベーションの促進や LCC の低減を図っていくため、コンサルタントという職業を尊重し、発注者とコンサルタントとの協力体制を強化していくべきという信念があった。ついで氏は、市町村で構成される協会から 2006 年に発行された「インフラガイド」の編纂に関与することとなり、その中で、QBS をコンサルタント選定の推奨方式として明確に提示した。この「インフラガイド」はカナダの各自治体が参考とするものであるため、QBS の全国的な水平展開に大きく寄与する成果と言える。このような努力の結果、2007 年にはロンドン市における全業務について QBS 方式が適用されることになった。これにより、市職員の経費や契約手続きに要する時間を削減することができたという。全国的にはまだまだ緒に就いたばかりの QBS 方式だが、氏は現在、コクイットラム市で QBS 導入を進めているところである。

コンサルタントに対するリスペクトを持ちつつ氏は、リスクを取る者がいないことが最大の課題と問題提起し、声を発し、発注者に信頼されるチャンピオンになれとの叱咤激励で講演を締めくくった。

3.品質が良くてもゴミはゴミ（リダ・ニュートン）

ニュートン氏は、カナダ連邦政府の Defense Construction Canada（DCC）なる省庁の方である。DCC は国防省のみを対象とした営繕部的な役割を担っている部署のようである。国防省関連施設に係る永年に渡る実績が蓄積されていることから、貴重なデータをふんだんに活用し、定量的に品質というもののあるあり方を提示してくれた。

氏は、品質と一口に言っても、インフラの場合、

「性能」「信頼性」「耐久性」「有用性」「外観」「適応性」「知覚品質」といった多様な側面から捉える必要があると主張する。そして、設計がライフ・サイクル・コストに与える影響の大きさを示し、設計段階の重要性を説いた。また、「安かろう悪かろう」を示す事例として、次のような国家防衛局（DND）による調査結果を紹介した。

建設費が安いほど、維持更新費がかかっている
最近の建物ほど建設費は安いが維持更新費がかかっている

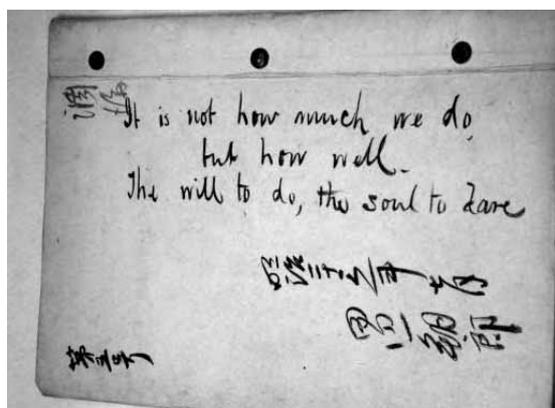
設計品質をスコア化し相関をとると、品質の低い方が維持更新費がかかっている

この調査結果から、如何に設計における品質を確保するかが重要と結論づけ、コンサルタントと発注者は一丸となって、設計要件の重要性や、エンド・ユーザやLCCに対する影響力を認識しなくてはならないとした。

4. どれだけ多くやるかではなく、如何に良くやるかが大切（中川茂雄）

昨年のシンガポール大会からFIDIC大会に参加頂いている国際協力銀行（JBIC）だが、今年の中川茂雄参事からQBSにまつわる講演を頂戴した。QBSを堅持しているJBICも、他の援助機関の動勢を踏まえた時、QBSのみという選定方式の維持が困難となりつつあるという悩ましい胸の内を吐露される内容であった。

氏は冒頭、明治初期に京都で琵琶湖疏水を開通さ



It is not how much we do, but how well (田邊朔郎)

せた土木技術者田邊朔郎を紹介し、講演のタイトルである彼の言葉「It is not how much we do, but how well」を引用して、インフラにおける量より質の重要性を訴えた。

ついで、JBICの援助プロジェクトにおけるコンサルタント選定方式は、現時点では基本的にQBSのみであり、質を重視している姿勢を示した。

一方、世界銀行やアジア開発銀行等、国際融資機関ではQBSとQCBSの折衷型をとる趨勢にあり、また、JBICと同じようなパイラテラル融資機関（ドイツKfWやフランスAFD）においてはQCBSが基本になっている。さらに、2005年の援助効果にかかるパリ宣言では、ドナーが援助先の制度を尊重することを求めているが、途上国サイドにおいてもQBSのみでコンサルタントを選定している国はない状況にある。

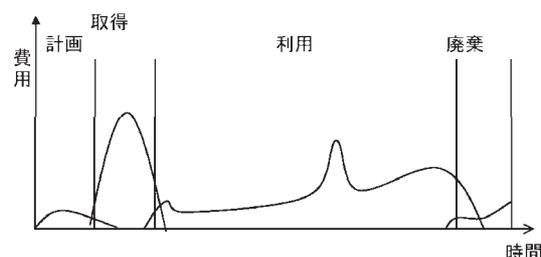
このように、QBS方式のみという選定方式を堅持していくには誠に厳しい環境にあるが、公共事業の調達においては、品質とコストのバランスを図り、透明性やアカウンタビリティを確保することが肝要であること、更に、ボーダーレス化する世界にありながら、技術力や制度、認識には歴然とした地域差があることを踏まえ、情報交流や啓蒙が必要であることを強調した。

5. ワークショップ

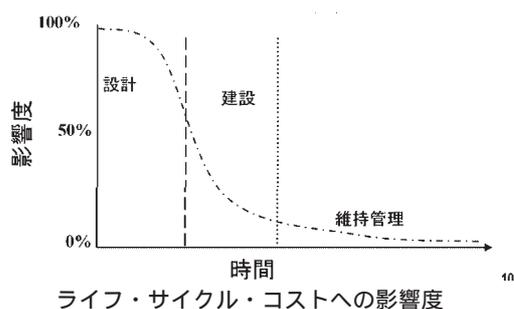
セミナー後の午後、ラウンドテーブル・ディスカッションが行われた。3つのグループに分かれ、4つのテーマに沿った議論が交わされた。以下に主要な意見を紹介する。

品質と持続性の関係を計測し示すには？

品質は長期のサービスを意味し、それは持続



ライフ・サイクル・マネジメント



可能性につながるので、基本的に品質と持続可能性はイコールと考えられる

持続性は、LCC やCO2削減量、省エネ量などの性能で計測すべき

FIDIC PSM (Project Sustainability Management : プロジェクト持続可能性管理) のインジケータを活用し、持続性を定量化すべき

投資と持続性の関係について発注者に理解してもらうには？

持続性とその便益の関係や成功例を示すことが必要

各国協会はもっと発信すべき

発注者のみならず、住民に対する啓蒙も必要

持続性の原則を業務仕様や契約に組み込むには？

目標及び認識の共有化が必要

標準契約書を早急に準備すべき

コンサルティング・サービスの調達において QBS を推進していくには？

ベスト・プラクティスを示すことが必要

QBS による便益を定量化することが必要

市民に対する PR をすべき

6. おわりに

世界銀行がコンサルタント・ガイドラインを改訂し、QCBS 導入の方向に舵を切ったのは、1996 年のことである。それから 10 年余り、世界銀行に追随する形で、各国際融資機関は QCBS の導入を図ってきた。しかしその一方で、カナダでは QCBS から QBS への移行を成し遂げようとしている。大きな援軍である。北米大陸は QBS の最後の砦になるのかも知れない。また、シンガポール大会では、世界銀行でも (QCBS 導入のせいではないという前置きをしつつ) 品質の低下を嘆く話があった。QBS と QCBS にはそれぞれ一長一短があり、ものごとに絶対ということが無い以上、今後も品質とコストというトレード・オフの間で揺れ動いて行くことだろう。

一方、我が国の国内プロジェクトに目を転じてみれば、多くの場合、CBS (Cost Based Selection 価格による選定) という世界でも類を見ない方法でコンサルタント選定がなされている情けない実状である。この手のワークショップに参加し、その状況を説明するたび、誠に肩身の狭い思いをしている。講演者が熱く語ってくれたように、QBS の意義について発注者や国民の理解を得るよう、我々エンジニア並びに協会が繰り返し声を発し続けて行かなくてはなるまい。

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

It is not how much we do, but how well

国際協力銀行 プロジェクト開発部 課長
宮尾 泰助

国際協力銀行 プロジェクト開発課 参事
中川 茂雄

FIDIC 2008 Québec Conference :: 7 - 10 September

It is not how much we do, but how well

Taisuke MIYAO Director
Shigeo NAKAGAWA Advisor

Procurement Policy and Supervision Division
Project Development Department
Japan Bank for International Cooperation (JBIC)
(s-nakagawa@jbic.go.jp)
From October 1, 2008
Japan International Cooperation Agency (JICA)
(Nakagawa.Shigeo@jica.go.jp)



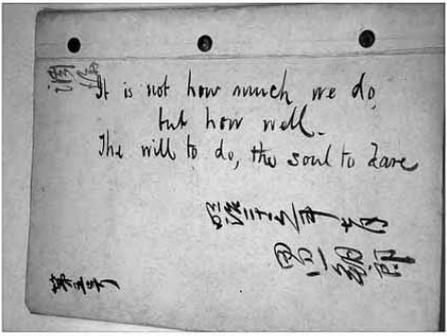
FIDIC 2008 Québec Conference :: 7 - 10 September

1. Introduction
2. QBS/QCBS
3. Information Sharing



FIDIC 2008 Québec Conference :: 7 - 10 September

1. Introduction




FIDIC 2008 Québec Conference :: 7 - 10 September

1. Introduction



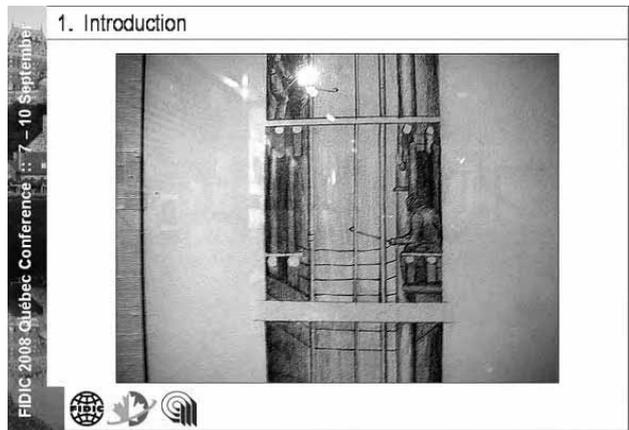
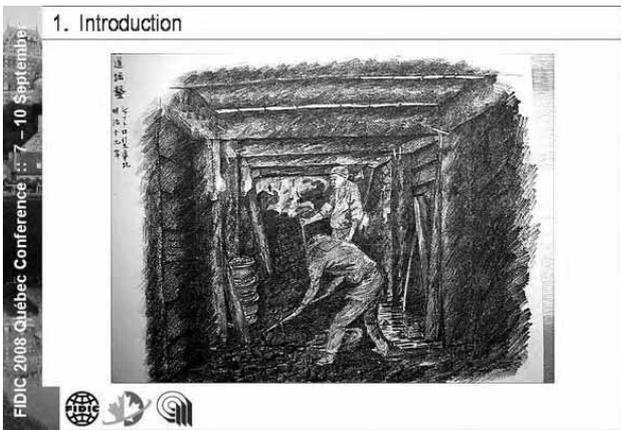
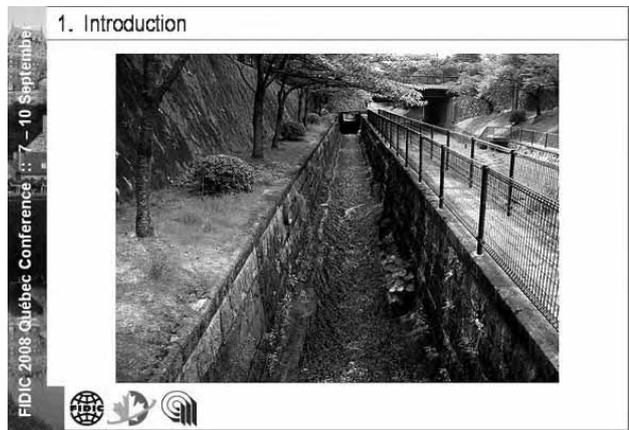

FIDIC 2008 Québec Conference :: 7 - 10 September

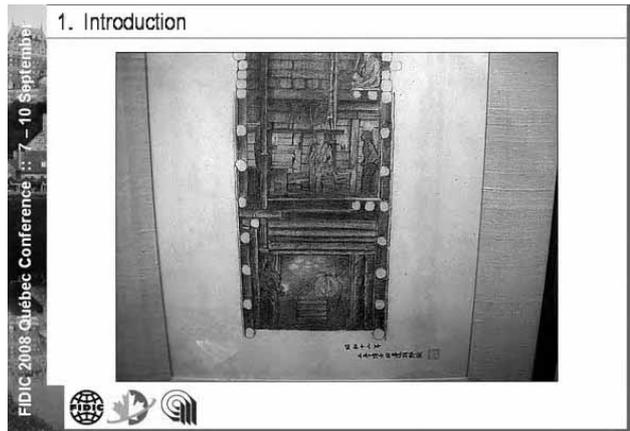
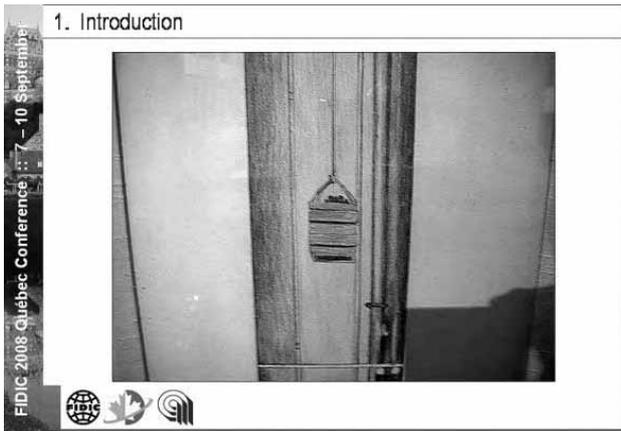
1. Introduction




FIDIC 2008 Québec Conference :: 7 - 10 September





2. QBS/QCBS

Consultant Selection in Developing Countries

Owner's capacity: limited in terms of human resources, technology and language
 Political intervention: possible
 Mass media: relatively weak
 Financer's review: limited involvement

FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 September

Japanese ODA Loan : Consultant Selection Method

QBS Only

Discussions concerning costs shall be conducted only after the highest ranked consultant is invited.

(Sec. 3.01 of the Guidelines for the Employment of Consultants)

FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 September

World Bank : QCBS

QCBS is the most commonly recommended method [Guidelines 1.5]

Because under QCBS the cost of the proposed services is a factor of selection, this method is appropriate when [Consulting Services Manual 9.3.1]:

- the type of service required is common and not too complex;
- the scope of work of the assignment can be precisely defined and the TOR are clear and well specified;
- the Borrower and the consultants can estimate with reasonable precision the staff time, the assignment duration, and the other inputs and costs required of the consultants;
- the risk of undesired downstream impacts is quantifiable and manageable; and
- the capacity-building program is not too ambitious and easy to estimate in duration and staff time effort.

Guidelines: Selection and Employment of Consultants by World Bank Borrowers (May 2004 revised October 2006)
 Consulting Services Manual 2006

FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 September

World Bank : QBS

QBS is appropriate for the following : [Guidelines 3.2]:

- complex or highly specialized assignments
- assignments that have a high downstream impact and in which the objective is to have the best experts.
- assignments that can be carried out in substantially different ways, such that proposals will not be comparable.

FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 September

ADB : QCBS

Asian Development Bank
 QCBS: ADB's preferred method [Guidelines 1.5]

Since under QCBS the cost of the proposed services is a factor in the selection, this method is appropriate when [2.2]

- the scope of work can be precisely defined,
- the TOR are well specified and clear, and
- ADB or the borrower and the consultants can estimate with reasonable precision the personnel time as well as the other inputs required of the consultants.

Guidelines on the Use of Consultants by Asian Development Bank and Its Borrowers (February 2007)

FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 September

ADB : QBS

QBS is appropriate when [Guidelines 2.23]

- (i) assignments are complex or highly specialised making it difficult to define precise TOR and the required input from the consultants,
- (ii) assignments where the downstream impact is so large that the quality of the services is of overriding importance for the outcome of the project, and
- (iii) assignments that can be carried out in substantially different ways such that financial proposals may be difficult to compare.



KfW (Germany)

In this two-stage procedure the consultant who has made the best offer in regard to quality of services and price will be chosen in competition between preselected applicants.

[Guidelines 2.01]

Guidelines for the Assignment of Consultants in Financial Cooperation with Developing Countries
(November 2006)



AFD (France)

Generally, limited bidding should be the rule. The selection is generally based on quality and cost, with weighted technical and financial proposals.

AFD Finance Procurement in Foreign Countries: Intervention Principles (January 2007)



Paris Declaration on Aid Effectiveness (March, 2005)

Donors commit to:

- (1) Progressively rely on partner country systems for procurement when the country has implemented mutually agreed standards and processes.
- (2) Adopt harmonised approaches when national systems do not meet mutually agreed levels of performance.



Selection Methods in Borrowing Countries 1

1. QBS and QCBS

India: QCBS : Under normal circumstances
QBS : May be used in cases of the assignment is of very complex nature, etc.
Other methods

Indonesia, Pakistan, Philippines: QBS, QCBS and other methods



Selection Methods in Borrowing Countries 2

2. Two Envelope Bidding System

Morocco: Simple cases: Technical Selection → **Lowest submitted cost**
Complex cases: Technical Selection → **Highest score** (Technical and financial points)

Sri Lanka: Technical Evaluation → **Financial analysis of economical bid** to decide the appropriateness of the price



Selection Methods in Borrowing Countries 3

3. Merit Point System

Tunisia: Simple contracts: **Lowest tender**
Complex contracts: **Best offer in technical and financial aspects**

Vietnam: Technical requirements are not high: **Highest overall point score** (Technical aspects: not less than 70%)
Technical requirements are high: **Highest technical point**



Selection Methods in Borrowing Countries 4

4. No QBS Method

Bangladesh: The two preferred methods are QCBS and Fix Budget Selection.

Peru: The selection method is QCBS under Peruvian Laws.



FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 September

QBS : Challenged

Is QBS best method?
Quality based evaluation → Negotiation → Contract

Evaluation:

Negotiation:
How could we justify price after contract ?
How could we justify Man-Month (M/M) adjustment?
Is it time consuming ?



FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 September

Consultant Selection

Feasibility Study → Detailed Design → Supervision

Same: Continuity, Consistency
But, check and balance
Direct Contract : Not transparent
Proposal Competition: effective ?

Could DAB/Assessor mitigate the risk?



FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 September

Consultant Selection

Evaluation of experience

Change of personnel



FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 September

Balance between Quality and Cost:

Consideration of life cycle cost
Merit point system
Environment consideration
Safety measures

Public Procurement: transparency and accountability
↔ Confidentiality



FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 September

3. Information Sharing

In 21st century, the World has become flat, though...
Still huge gap of technology, system and perception.

Need to work for: More Enlightened
Owner, Financer, Government Administrator, Media
Congress, and Tax payers



FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 September

3. Information Sharing



©2008 Nikkei Business Publications, Inc.



FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 September

3. Information Sharing



©2008 Nikkei Business Publications, Inc.



FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 September

3. Information Sharing



©2008 Nikkei Business Publications, Inc.



3. Information Sharing



©2008 Nikkel Business Publications, Inc.



FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 Septembre

3. Information Sharing



©2008 Nikkel Business Publications, Inc.



FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 Septembre

3. Information Sharing



©2008 Nikkel Business Publications, Inc.



FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 Septembre

3. Information Sharing



©2008 Nikkel Business Publications, Inc.



FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 Septembre

3. Information Sharing



©2008 Nikkel Business Publications, Inc.



FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 Septembre

3. Information Sharing



©2008 Nikkel Business Publications, Inc.



FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 Septembre

3. Information Sharing



©2008 Nikkel Business Publications, Inc.



FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 Septembre

3. Information Sharing



©2008 Nikkel Business Publications, Inc.



FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 Septembre

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

Seminar & Workshop6 Does Risk Transfer Threaten Quality?
セミナー&ワークショップ6 リスク転嫁は品質を脅かすか？株式会社日水コン 河川事業部 副事業部長
国際活動委員会副委員長 蔵重俊夫

会議名：「リスク転嫁は品質を脅かすか？」

日時：H20年9月9日 11:00 - 15:30(昼食を挟んで前半がセミナー、後半がワークショップ)

場所：Fairmont Frontenac Le Chateau Hotel, ケベック市, カナダ

議長：Adam Thornton, Dunning Thornton, NZ

プレゼンター：Derek Holloway(ENCON,カナダ)、
Peter Ventin(UMA/AECOM,カナダ)、
Nicola Grayson(ACEA,豪州)

1. 議長説明(Adam Thornton)

議長は、“ 技術は二つのタイプの人間によって支配される。一つは自分自身ではマネジできない技術を理解できる者、もう一つは自分自身では理解できない技術をマネジする者(Putt's Law and the Successful Technocrat by Archibald Putt)”と、前者をコンサルタント、後者をクライアントとした比喻を紹介し、結果的にクライアントや社会の利益につながるリスクの分担が必要と強調した。そのうえで、保険家、コンサルタント、弁護士の観点からリスク転嫁と品質の関係について考察し、いくつかのテーマに関するグループ討議を行うワークショップの進め方について説明した。

2. 保険会社からみた考察(Derek Holloway)

保険会社のDerek氏による説明では、品質とは見方に依存するという前提を置き、品質とは何かについて、外観、機能、耐久性、性能、維持管理性と定義した。そして、コントラクターやコンサルタントに転嫁される代表的なリスクは利益・性能・遅延・プロジェクト上の欠陥である。伝統的な契約形態においては、その転嫁は、コンサルタントとコントラクターに分配されて転嫁していたものが、DB(Design-Build : 設計・施工一括発注方式)になるとデザイン・ビルダーに一括転嫁され、さらにコンサ

ルタントに転嫁される。そして PPP(Public Private Partnership : 官民連携)では、コンソーシアム等のプロジェクト遂行会社にリスクが転嫁され、そしてそこからコンサルタントやコントラクターに分配される。リスク転嫁の具体的な方法は、賠償とペナルティである。コンサルタントがこのように転嫁されたリスクをコントロールし、品質を確保する方法は、良好なコミュニケーション、書面主義の徹底、充実した交渉、リスク考慮の報酬確保、リスクに応じたプロジェクトの取捨選択といえる。リスク管理への提言は、リスク管理アドバイスを受けること、保険証券や適用除外事項の記載を知ること、保険料を支払うこと、受け入れ可能なリスクを選択することである。



リスク転嫁のルート

3. コンサルタントからみた考察(Peter C. Ventin)

コンサルタントを代表して講演した Peter Ventin 氏によると、コンサルタント業務や建設契約の世界的な趨勢は同じ失敗の繰り返しであり、慢性的なプロジェクトの遅延、資金不足、不適切な予算措置や投資スケジュール、コスト増の後追いの認知、地域の読み切れない反応、仕様の後追いの変更、低価格入札、マーケットの縮小などによって業界の活力が失われている。

特に、大規模なプロジェクトとなると、唐突に巨額の資金投入がなされたり、小さなプロジェクトに適用された統括方式がそのまま大規模なものに適用されたり、大規模プロジェクト経験のない職員ばかりで対応したり、調達方法・保険・約款等も大規模化に適応していない

場合がある。一般に、リスク軽減策は、回避、危機対応資金、契約的転嫁、リスク低減策、保険、リスク管理などであるが、大規模プロジェクトの場合、リスクの再現性、政治、資金、資産、コスト、工程、品質、責務、地域、契約約款など、様々な側面から対応の検討が必要とされ、要員をしっかりと訓練する必要がある。

リスク転嫁のメカニズムとしては、クライアントによる無理な工程・予算・仕様の押しつけが典型的であり、コンサルタントとしては、革新的技術の適用凍結、予算相応設計、既存実例方式の適用などの対応が必要とされる。また、契約時のリスク回避、保険、危機管理資金などの伝統的なリスク管理手法に加え、効果的なリスク管理プログラムの開発や組織全体での対応を図っていく必要がある。

4. 法律家からみた考察 (Nicola Grayson)

豪州コンサルタント協会 ACEA の国家政策マネージャー Nicola 女史は、契約そのものの法的解釈から斬新な目でリスク管理のあり方を提言した。

まず、契約とは法の支配を受ける合意のことであり、2つ以上のパーティによる義務を定めたもので、その範囲で自由に取り決めうる私的領域の行為である。そして、契約の理論的な目的は、一貫性をもち、明白で、確かな取り決めとして、権利と義務の配分を含む総合的な合意を行うものである。また、その合意過程で、ビジネス関係を構築し、互いへの期待を設定し、リスクや紛争を低減させるものである。

現実には、契約は公正で公平な取引 (fair and equitable bargain) でなくてはならないが、コスト増、損害を招きくようなコンサルタントの注意義務や技術・知識以外に起因するリスクに晒されるケースがみられる。その一例が、コンサルタントサービスやその関連で生じたあらゆる環境汚染のクリーンアップの押しつけにみられるリスク転嫁である。

そもそもコンサルタントが売るのは、公正で公平な契約からもたらされる便益である。そしてこの考え方を実現するため、実際にコンサルタントが実施すべき事項、管理できないリスクによって被るコスト、簡単にリスクを価格化したり、覚悟があれば乗り切れるといっ

たことは間違った考えであること、リスク転嫁によってリスク管理できたとするのは神話とみなすこと、保険で埋められないギャップを説明すること、が重要である。そして、あくまでサービスを売ること、そうすれば、顧客とよりしっかりした関係構築となる。また、公平な契約はより良い協力関係・品質・革新的提案につながる。

そのため、責務の制限は重要であるが、それによって弁済される損失額も明確となるという好意的見方がある一方、怠慢としかいえない行為による損失に対して、なぜ責務の制限が必要かという見方もある。それに対する法廷の見解は、背後の事実関係、交渉がなされた際の状況、交渉の経過、各パーティが知っていた客観的事実、何を言い、記載し、行ったか、その他法廷での尋問に関する事項であり、関係者の事実行為と書面として残された文書がキーである。

ACEA では、色々な紛争を乗り越え、約款上に責務の制限を盛り込むこととなった。その制限事項は、賠償金額の上限に加え、賠償責任期間の両面で設定され、この約款は法廷で「標準」として認知された。

5. グループ討議

昼食後に行われたグループ討議は、議長より提示されたリスク管理に係わる様々なテーマについて、ワークショップ参加者を4つのグループにわけて議論するというものであった。テーマは、以下のようなものである。

リスクの認識度合い、コンサルタントのリスク回避の資源や権威、不適切なリスク転嫁による品質や倫理への影響、リスク受諾に必要な十分な報酬、前向きで有益なリスク転嫁と不適切なものとの識別、不適切なリスク転嫁に関するエンドユーザーたる国民の関心、

業界の新たなリスクとして革新的技術や品質の制限、コンサルタントへのペナルティとしてのリスク転嫁、品質の定義、低価格で脅かされている品質問題、戦略的なパートナーとして品質を提供するコンサルタントは、品質を高めるための最重要の行動、品質を高めるためのクライアントの最重要の行動、コンサルタントへの世間の批判に 대응するための FIDIC や FIDIC 会員協会の行動、契約交渉できるエンジニア能力を確保するための方策 等々

議論の結果は、終了間際に駆け足であわただしく報告されたが、どのグループも何らかの結論に達したわけ

でなく様々な議論が噴出し、その意味で意義のあるワークショップであった。

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

Plenary Session Building Strong Organization
全体講演 堅強なCE企業の構築に向けて

AJCE 事務局長 **山下佳彦**

日時：2008年9月10日 9:00 ~ 12:30

場所：Salle de Bal, Ch. Frontenac

議長及び講演者：

議長 Pablo Bueno Thomas, FIDIC 理事

講演者 本文のとおり

参加者 約100名

はじめに

全体会議は、「堅強な Consulting Engineer(CE)企業の構築に向けて」をテーマとし、4名の著名なCE業界のリーダーが、企業がいかにその人的資源を活用し、利益を確保し、社会に発信し、品質の高い成果を提供してゆくかを報告し、これに続いて開催されるセミナーやワークショップの基調とするものであった。その切り口として、企業利益の確保と持続性、継続的な計画に基づく人的資源への投資、CE業界を支援するための社会の役割、社会へのPRなどがあげられた。以下に各スピーカーの報告を紹介します。

1 .Mr. Rick Firlotte, Golder Associates 社長,

Canada

Golder Associates社は1960年カナダオンタリオ州に、地質関連の小規模な専門コンサルタント企業としてスタートし、現在、グループ全体で社員7,000名、世界32カ国で事業を展開している。

企業規模を拡大する上での理念は、グループが持つ世界的な情報や資源を活用し、それを地域に活かすことで競争力を高めること、とのこと。世界展開している

利点は、世界各国のクライアントのニーズに応えられること、地域独自の強みに加え世界的な人的資源を付加できること、技術移転と資源の共有を図れること、社員の機会増大と忠誠心の向上、成長機会の増大、世界の多様な市場や経済に対応可能なこと等があげられた。

世界展開して成功するための秘訣は、各地域の実績と組織全体の適正なバランスとブランド力のアップ、中央集権でなく地域ごとの決定権の付与、分かりやすく明確なビジョンと行動計画、コアとしての倫理観の高さなどが上げられた。この関連で講演者は、世界各国のクライアントとの信頼関係の促進、技術開発(イノベーション)と得意技術の共有、共通の会計システムや内部監査の導入、社員全員の経営参加(ownership)が成長のコアである、と報告された。

2 .Mr. Pierre Shoiry, GENIVAR 社長, Canada

GENIVAR社は1988年に設立当時280名でスタートし、2006年までに23社を吸収合併しており、現在3,400人の社員を擁している。カナダ国内に80事業所を持っているものの、海外には事務所をもたない。2008年の売上は、3.5億カナダドル(約360億円)で、2006年から、現在まで毎年25%成長を続けている、とのこと。

経営で重視している点は、人材への投資、やる気を持たせる職場環境づくり、企業経営への参加機会、社会からの評価、クライアント優先などが上げられた。

人材への投資については、優秀な人が魅力を感じ入社し、入社後は着実にキャリアビルドし会社に残り続けることが肝要とのこと。このため、社員との日常的なコ

コミュニケーションを図り、仕事量のバランスをとる、業
 的なチームを編成する、武器となるツールを開発する、
 社員の定期的な訓練を実施する、起業精神を育む等が
 あげられた。

3 .Mr. Martin Nielson, Scott Wilson 役員, UK

「統合がもたらす便益: Profit from Integration」と題して、
 プレゼンが行なわれた。企業の統合により、変化する市
 場に迅速に対応できること、効果的なプロモーションが
 できること、技術的・経済的なアドバンテージを得ること
 ができ、最終的な便益は、CE 業界が確固たる競争力を
 持つことである、と力説された。統合による成果として
 は、利益と業務効率の向上、廃棄物の削減、安全基準
 の向上、事業リスクの低減があげられた。

統合された業務の実施を阻害する要因として、企業
 文化の相違、能力と規模の相違、調達方法の相違、コ
 ストと価値のバランスの欠如などがあげられている。こ
 れらの阻害要因に対し、会員企業はクライアントに信頼
 されるアドバイザーとなり、入札では「チームの特定」を
 促進させる、一貫性のない契約書に対し断固反対する、
 公平な契約条件を求める、瑕疵担保保険に上限を設定
 する等につき、協調してクライアントの理解に努める必
 要がある。FIDIC に対する要望として、契約約款の普及
 により一貫性のない契約書を排除すること、品質による
 選定を促進すること、これらを各国政府に要請すること
 などがあげられた。

4 .John Dionisio, AECOM 社長, USA

AECOM 社は吸収合併を繰り返し大きくなった会社で、
 現在 100 カ国に事務所を置き、41,000 人の社員を擁し
 ている。昨年の売上は 47 億ドル強(約 5,000 億円)で、
 45%は米国、アジア・太平洋が 22%、ヨーロッパが 12%
 となっている。グローバルな企業であり、社員数と売上
 の半数以上は、海外である。

企業のビジョンを持続するための方策として、規模の
 大きさより「より良く」を目指す、企業目的と社員への約
 束に対し正直であること、クライアントには満足行く成果
 を提供し、社員にはリーダーとして成長する機会を与え
 ること等をおし、価値を提供してゆく。

強い企業となるため、変化してゆく市場に自らを置き、
 多様なサービスを提供し、最新の戦略を立て、それに
 基づきクライアントのニーズに応じてゆく。また、高い品
 質とサービスを提供するため社員の能力を自由に活か
 す。変化する市場に我々も変わってゆく、とのことでした。

おわりに

現在は大規模な CE 企業も、始めは小規模であった。
 成長のヒントは何か? 講演者の発表から推測すれば、市
 場のニーズを先読みできる先見性と素早い実行力、社
 員の能力を十分に引き出す教育とマネジメント、高い理
 想(ビジョン)と倫理観、社会的評価を得られる広報活
 動、人的ネットワークの構築と連携、共有化された目的
 意識とそれを支えるコミュニケーション、いうことであ
 るうか。日本人には、更に英語力が加わってくる。どれを
 とっても難題である。

特集 : FIDIC-2008 ケベック大会報告

Seminar 7 Advocacy: A Voice for the Industry セミナー 7 主張 : 業界の声

株式会社東京設計事務所 代表取締役副社長
 AJCE 副会長 国際活動委員会委員長 宮本正史

日 時 : 2008 年 9 月 10 日 11:00 ~ 12:30

場 所 : Salle de Bal, Ch. Frontenac

議長及び講演者 :

議 長 Gregs Thomopoulos, FIDIC 理事

講演者 Karine Leverger, SYNTEC-Ingenierie
 廣谷彰彦, AJCE
 Dave Raymond, ACEC, USA

Thomopoulos 議長から、このセッションは特別なものであり、コンサルティング・エンジニアは政治に関わることは少ないが、プロフェッショナルとして社会に関わり、影響を及ぼしている。今回はフランス、日本、アメリカからの講演者に講演をして頂き、その後会場ともに活発な意見交換を行いたいとの挨拶の後、それぞれの発表が行われた。

1 . Developing Consulting Engineers as Trusted Advisors

Karine 女史はフランス協会の事務局次長であり、彼女の多岐に亘る経験に基づいて、同国における CE の置かれている状況について説明した。

フランスでは CE は“ 信頼される助言者 ”としてやってきた。今後さらに“ 信頼される助言者 ”としての CE の能力への信頼性を高める必要がある。そのために、2つの例として、Sustainable Development と Innovation の重要性を説明した。また、政策決定者やオピニオンリーダーにどのように影響を与えるのかを説明した。さらに、全ての関係者との議論を行うことの重要性について述べた。総合的な行動計画を持つことが必要であり、それには;

- 社会的な問題のキャンペーン
- 大学や高校とのパートナーシップ
- 表彰制度
- 年次大会

などを含める。また、協会としての重要なこととして;

- 集合的な活動が効率的である
- 適切なテーマの選定
- 積極性
- 協調者(味方)を見つける能力
- 活動のための予算

などを挙げた。

2 . Consultant Selection in Japan

廣谷氏は(株)オリエンタルコンサルタンツの社長であり、40年の経験を有し、現在 AJCE 会長、FIDIC-ASPAC (FIDIC アジア太平洋地域協会連合)議長であるとの紹介の後、廣谷氏から日本におけるコンサルタント選定の現状について説明があった。

日本ではコンサルタント選定は1889年制定の会計法によりコスト基準、すなわち CBS(Cost Based Selection : 価格による選定)で行われている。しかし、低価格による低品質のサービスは公共の利益に反することが明らかになってきた。日本で影響力のあるロビー団体である建設コンサルタンツ協会(JCCA)は選定方法の改善に取り組んでおり、1989年にATI構想を公表し、QBS(Quality Based Selection 品質・技術による選定)を提唱した。1999年に中村委員会が、コンサルタントの役割と調達方法の改善を検討するために設けられ、中央政府では品質を重視するようになってきた。国土交通省ではプロジェクトの形態によりさまざまな調達方法が採られるようになった。2001 ~ 07年の傾向をみるとQBSや随意契約が増え、CBSが減少してきている。2005年には公共工事に関する品質確保の法律が制定された。状況は改善されているが、まだ課題も多い。例えば地方公共団体にQBSの採用を働きかけていかなければならない。

3 . Influencing Government

Raymond氏はコンサルタントで20年の経験を有し、ここ10年間はACECの会長を務めている。それ以前は連邦政府及び学会で勤務した。

主張(Advocacy)の技術とは、“ 自分たちがやりたいことを公務員に言わさしめる ”ことである。そのためには;

- 明確な目標(goals)を定める
- 対象(target)を特定する
- 行動計画を作成する
- 剣闘士(gladiators)を探し、戦いに備える
- 道具(tools)を持つ
- 公務員と協議するルールを準備する
- 勝つために勝負(play)する

ことが重要である。

主張(Advocacy)が成功すると以下のような目標が

達成される。

- インフラへの投資の増加
- 税制面での優遇措置
- 調達方針の促進
- 公衆のイメージの向上

主張(Advocacy)はそれぞれの協会の最重要課題である。この点でFIDICは主導的でないといけない。



講演者：Thomopoulos 議長
右から2番目：廣谷会長

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

Seminar 8 Planning Success through Succession Planning
セミナー 8 企業が成功するための後継者育成計画

日本工営株式会社 コンサルタント海外事業本部 副技師長
迫田 至誠

日 時：9月10日(火) 11:00 ~ 12:30

場 所：Place d Armes, Château Frontenac

議 長：Alex Eyquem(英国)

発表者：Gayle Roberts(USA)、Liu Luobang(中国)、
Lee Wanjae(韓国)

内 容：コンサルティング エンジニアリング企業の成功の要素、後継者育成計画、指導者のあり方について3名から発表があった。その後発表者とセミナー出席者との質疑応答が行われた。

1. Gayle A. Roberts の発表(米国スタンレーコンサルタント会社の社長)

長期的に成功する企業は才能(talent)、協力(collaboration)、革新(innovation)の3要素を活用する。才能を蓄積するために新要員の雇用、次期指導者層の育成、社員教育が必要である。社員が協力する環



境を整えるために、チームの結成、部門を超えた業務分担、知識や知見の管理と移転が必要である。革新的であるためには、新旧技術の混合、斬新な考えや高価値業務の考案、前向きな姿勢を実行することが重要である。後継者育成計画は重要であり、計画の策定と社員への適用、企業の全レベルでの計画の実行、計画と進捗の社員への報告と社員の理解の3段階から成り立っている。

2. Liu Luobang の発表(中国ハルクロー上海エンジニアリング コンサルタント会社の副部長)

Yang Professionals(YP)に学習の継続、チーム精神、コミュニケーション能力、生産的かつ革新的な態度、国際的なコンサルビジネス能力を企業は期待している。YPはすでに経験を蓄積しており、また言語、情報、多文化への対応を得意としており、有望な後継者候補となつつある。YPは企業に長期に働く必要な企業要素として、企業の報酬、組織、文化、ブランド、雰囲気等を挙げている。

3. Dr Wanjae Lee の発表(韓国ドスンエンジニアリング会社の副社長)

韓国のコンサル企業の半分は創立者が企業の所有者である。創立者や元政府役人が会長、社長に居続ける場合がある。ほとんどの企業は後継者育成計画を考慮していない。公共事業、PPP(Public Private Partnership : 官民連携)事業、Demand Create 事業、海外事業へと分野が拡大している。企業の繁栄には、指導者の交代、所有権の従業員への移転、個人や従業員持株制度による株の保有、後継者育成計画の実行等が必要である。

4. コメントと質疑応答

20 分間行われた質疑応答やコメントの中で、Ms. Roberts は 5 年ごとに自分のキャリア計画を立て、業務

を通じての技術力の向上、夜間の学校でのマネジメントの学習などを行い努力したこと、社長はゴールではなく通過点であると話したことが特に印象に残った。

5. おわりに(所感)

Succession Planning(後継者育成計画)や Bench Strength Planning(将来会社の経営を担って立つ中堅幹部の人材を豊富にする計画)を日本の企業でも策定実行すべきであると感じた。発表した中国と韓国を含め各国の YP が将来の指導者となるべく積極的に学習していることに感動した。日本の若きエンジニア達を YP プログラムに多数参加させる企業内の環境整備が必要である。

特集 : FIDIC-2008 ケベック大会報告

Seminar9 Business strategies for a changing market セミナー 9 変化する市場に対するビジネス戦略

株式会社建設技術研究所 担当部長
国際活動委員会・政策委員会 河上英二

日 時 : 2008 年 9 月 10 日(水)11:00 ~ 12:30

場 所 : Chateau Frontenac Jacques Cartier

議 長 : Chris Newcomb

McElhanney Consulting Services(カナダ) 社長

1. 当該セミナーの目的

社会へのサービス提供を業とする Consulting Engineer (CE)産業は、経済の健全性によっている。利益は、クライアントや社会のニーズに合わせて経済力や技術力、人材力を成長させることができる企業にもたらされる。このセッションでは、CE 産業が成長し続けるために新しく、革新的な方法を見出したり、また変化する市場に適用することができる戦略の例についてレビューするものである。その事例として、以下の 3 つの報告がなされた。



2. A contribution of civil engineering consultancy firms to development aid

Jose Roman Pachon(スペイン):

TYPSA 役員 土木技術者

開発の目的は、雇用機会を創出するビジネスネットワ

ークの構築や継続的に発展していく方法を作り上げることにある。この点で土木のコンサルタント企業は適切にマネジメントできる最も適した組織である。透明性をもって、効果的かつ責任感を持って完璧に実施してくれる。ノウハウを伝達するには、国際的に活動している企業と一緒にその地に、地域、また個人のコンサルタント企業を設立することが迅速かつ効果的である。これはまた、発展途上の悪い循環を壊すためには、その地域の企業の能力形成をすることが最も効果的であり、促進をするべきである。

3. Driving engineering projects toward scientific development

Huang Shaohu : 中国石油会社の副社長

中国のCE企業はスタートは遅かったが、ここ10年で急速に発展し、いまや3,600もの企業と50万人の労働者を抱える産業となった。今では、年間に30万件以上ものビッグプロジェクトが発注されている。そして、市場の考え方も大きく変化してきた。中国政府では、戦略的

に“科学的発展のコンセプト”としてやエネルギー抑制、環境保護の方法などに取り組むこととした。このような変化をいい機会、チャンスとして捉えている。そのためには、コンサルタント同士で技術交流や連携、共同することや、高度な能力や知識を身につけることが必要である。

4. The international strategies of European construction companies

Michel Demarre : フランス Colas 社 CEO

EIC(ヨーロッパ国際建設企業)は、1970年に設立され、欧州15カ国を市場とする建設会社からなっている。より市場が大きく、より技術力を重視する、公平で倫理観のある市場をターゲットに取り組んできた。その結果、10年前の3倍以上となった。この拡大は、3つのEICの戦略によるものである。それは、技術競争力を発展維持すること、成長市場を対象としたM&Aの促進、建設関連サービスやその周辺を対象とした事業展開による技術の多様化である。しかし、この戦略方法には調達の仕組みが影響する。

特集 : FIDIC-2008 ケベック大会報告

2008-2009 Young Professionals Steering Committee Meeting 2008年-2009年 YPF ステアリングコミティ

株式会社建設技研インターナショナル
FIDIC-YPF ステアリングコミティ 中島隆志

1. プログラムの概要

日時 : 2008年9月7日 11時(現地時間)

場所 : Quebec City および Skype、Teleconference

議長 : Mr. Alex Eyquem

2. 主な内容

2008年 - 2009年のYPFステアリングコミティは16名で、うち私を含める5名が新たなメンバーの構成である。ケベック大会において2007年 - 2008年のChairであったMr. Stumpから2008年 - 2009年のChairをになうMr. Eyquemに引継ぎが行われるとともに、新期の第一回

目の会議として主に下記の点について議論がされた。なお、YPFの会議は毎月1回行われることとなっている。私は業務の関係上、カンボジアからSkypeでの出席となった。

Skype(IP電話)による会議であったがカメラがなかったため残念ながらケベックの会場の様子や参加者の顔ぶれを拝むことはできなかったが、通信環境は極めて良好でありこのようなツールの恩恵を直に感じる機会であった。前ChairのStump氏は冒頭で「直接顔を合わせることによって今後の活動が変わる」との旨の発言をされていたが、彼のこの1年間の経験から来るものであろう

が、共感するところがあった。

議題としては主に、(1)メンバー紹介、(2)London2009、(3)Newsletter、(4)今期の活動、があり、活発な意見が交わされた。

(1)メンバー紹介、においては新たに加わったメンバーが紹介された。新たに加わったのは中国から2名、カナダから2名、日本から1名とのことであった。

(2) London2009、においてはLondon大会に向けたYPFフォーラム等のプログラムの内容、進め方、等について意見が交わされた。London大会ではACEがYPFを対象にしたテクニカルツアーを考案しており、これが実現できるかどうかがチャレンジであるという点において共通的な認識を持った。前ChairのStump氏によると11月頃には最初のDraftが必要だということであり、早速実質的な活動が始まる様子であった。また、若手を対象としたFIDICのトレーニングプログラムであるYPMTPについて、そのベネフィットを明らかにする必要性があることが、経験者等から発言があった。

(3) Newsletter、については、私自身の不勉強もあるがFIDICのNewsletterとは別にYPFのものがあり、それをどのように改良したらいいのかという点がこれまでのメンバーを中心に話し合われた。基本的に若手に対してFIDICというものを知ってもらうことを念頭においていることからアクセスのしやすさ、情報のストック等からWeb上で常に閲覧できる形がよいとの意見が出され、合意を得た

形となった。また、ネット上の議論の記録等もいつでも見られるように、別のサイトを構築する提案もなされた。

(4) 今期の活動については、まずは前ChairのStump氏に対し、彼の経験から得た教訓をまとめSCに提案することを依頼し、同士も快諾した。会議の時間が限られていたため、おそらく主たることは夕刻に用意されている場で意見交換がなされるであろうが、具体的な点が提案されることが期待される。この場で、Skypeを通じた会合が第一木曜日に設定されることを各委員が確認をした。なお、会合の時間については委員それぞれの時差等を勘案して適当なところをAlex氏が提案することとなった。次回は10月2日となる。

(5) ASPACのYPFの立ち上げが今大会で提案されることもあり、FIDICYPFとのかかわり等について大会の場で十分な意見交換がなされることが期待される。冒頭にStump氏が述べていたとおり、テクノロジーにより遠隔地からの会議の出席は可能であるが、Face to Faceのコミュニケーションに勝るものはおそらくない。私は今期から参加することになり、今回が最初の会議であったが、語学も含めコミュニケーションの重要性を痛感する場だった。SCのメンバーはおそらく20台～30台前半がほとんどであり、日本としても場を知るという観点からも若手をこのような場に関与することは有益なことであろうと感じた。

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

Young Professional Open Forum ヤングプロフェッショナルオープンフォーラム

株式会社日水コン 東京下水2部1課
国際活動委員会 赤坂和俊

日時：2008年9月8日(火)16:00-17:00

場所：Salle de Bal, Chateau Frontenac

参加者：約40名

議長：Richard Stump (USA)

1. 概要

まず、議長より、YPFの背景と歴史、その目的、運営委員会(Steering Committee : 日本から中島隆志氏(建設技研インターナショナル)が新たに参加)、今回のプレゼンテーションの概略等について、説明があった。

その後、以下の4カ国のYP(Young Professional)の活動報告 + ASPAC(Asia-Pacific group of FIDIC Member Associations) YPF設立の提案に関する報告があった。

中国

ノルウェー

日本(ASPAC委員会)

カナダ

オランダ

私の報告では、FIDIC YPFとASPAC YPFの関係等について説明し、この会議において、承認、賛同及び協力(サポート)を得ることを目的としており、事前に議長 Richard Stump 氏へ、山下事務局長からプレゼンの趣旨を説明していたこともあり、理解が得やすい状況であった。



2. おわりに

この場で、ASPAC YPF設立の報告ができたことが非常に重要であり、課題は色々あるにしても、まずは成功と言えよう。

FIDIC YPFですら、実際にヤングプロフェッショナルが活動できる状況までこぎつけるのに約4年間かかっている、という。

その意味では、一歩が大事である。

最後に、ノルウェーと私以外のプレゼンターは、予定時間の7分を大幅に超過(中国はあろうことか20分以上も)し、60分ではとても議論できる状況ではなかったのが残念であった。

ASPAC-YPF
(Young Professional Forum)

YP Activities for Asian-Pacific Region

Kazutoshi AKASAKA
Nihon Suido Consultants Co.,Ltd
ASPAC Secretariat (JAPAN)

FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region 1

What is ASPAC ?

- ✓ An Asia-Pacific regional body of FIDIC member associations
- ✓ Established in 1977
- ✓ Composed of 19 associations

Map showing member associations in Asia-Pacific region: Iran, India, Pakistan, Nepal, China, Korea, Japan, Bangladesh, Sri Lanka, Thailand, Vietnam, China Hong Kong, China Taipei, Philippines, Singapore, Malaysia, Indonesia, Australia, New Zealand.

FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region 2

Proposal of ASPAC-YPF

YPF Activities for Asian-Pacific Region

- ✓ European/American CE firms have the advantage for "Globalization" with their language of English
- ✓ Asia/Pacific countries have different culture from European countries and America.
- ✓ Enhanced Information Exchange and cooperation among Asia/Pacific countries are necessary.
- ✓ Promotion of YPs' Activities would play an important role in Asian/Pacific countries.

FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region 3

Establishment of ASPAC-YPF (proposal)

- 1) Operation Department**
Implement YPs' activities, planning, and feed back outcomes to ASPAC MAs as well as to FIDIC-YPF for mutual interests.
- 2) Research Department**
Collect information about challenging issues, update and feedback YPF activities, study features of CE industry in ASPAC countries, etc.
- 3) Education Department**
Organize and implement training seminars, produce education materials based on FIDIC tools, etc.

FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region 4

Implementation of ASPAC-YPF

Steering Committee

- 1) Publicity
- 2) Education,
- 3) Administration
- 4) FIDIC activity

Meeting

- ✓ 4 times/year, TV system or "Skype" system
- ✓ Topics
 - Update of CE or YPs' activities in member countries
 - Operational issue
 - Election of S/C member
 - Measures for improving natural and build-environment
 - Preparation for FIDIC annual conference
 - Liaison between ASPAC-YPF and FIDIC-YPF
 - Annual plan, report
 - Education programme for YPs

FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region 5

Organization of ASPAC-YPF

FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region 6

Sub-Regional Groups of ASPAC-YPF (Proposal)

FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region 7

Relationship with FIDIC-YPF (Proposal)

FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region 8

Steering Committee Member (Proposal)

FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region 9

Thank you for your Attention.

FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region 10